色別恋人判定法

●ズバリ明かす！ バルドーの秘密●



麻原彰晃

Shoko Asahara

色別恋人判定法

●ズバリ明かす！ バルドーの秘密●



麻原彰晃
Shoko Asahara

❖CONTENTS❖

色別恋人判定法

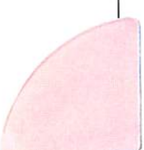
●ズバリ明かす！　バルドーの秘密●

























※本書は、月刊『えんじょい・はぴねす』91年9月号から92年4月号に連載された「色別恋人判定法」に加筆訂正したものです。

◉恋人を選ぶポイントは〝心の発する光の色〟

人間として生まれた場合、二つの正しい生き方がある。その二つの中で最も正しい生き方は、人間としての普通の生き方を経験し、ありのままに経験を見つめ、超越する。そして、人間としての経験の意味合いをすべて理解した後、人間の社会を超越するために出家し、心を傾注し、人間界以上の世界である意識堕落天、行為戯れ堕落天、神聖天、神聖天より高い世界、非形状界（無色界）の世界等の一つ一つの世界を経験し、観察し、分析し、超越し、そして、大到達真智完全煩悩破壊界へと至ることである。

そして、第二の選択は、この人間世界にありながら、人間世界の要素（カルマの法則）を学び、検討し、分析し、理解して、よりよい正しい選択をする生き方である。

『えんじょい・はぴねす』の読者の方々には、この後

者の道を示し、その道を皆さんが理解することによって、皆さんによりよい楽しい幸福な人生を歩いていただきたいと考え、これからわたしが様々な経典理解と神通(じんつう)によって経験し精通した、不思議な、そして、ためになる話をしたいと思う。

それでは、異性の洋服の色による、「色別恋人判定法」についてお話ししよう。

わたしには七百名の出家した内弟子がいる。この内弟子たちは、マスコミでいわれているように未成年の男女がほとんどではなく、成人した、立派な男女が、様々な人生模様を経験した後に出家してきている。そして、彼らの人生模様と、彼らが発している心の光とは全く一致するのである。

この相手の発している心の光や、それより少し次元は落ちるが、彼らの持っている、彼らの習得した知識の光の二つを正確に天眼(※てんげん)により見ることができるなら、この講話を読む必要はない。

※神通力の一つ。

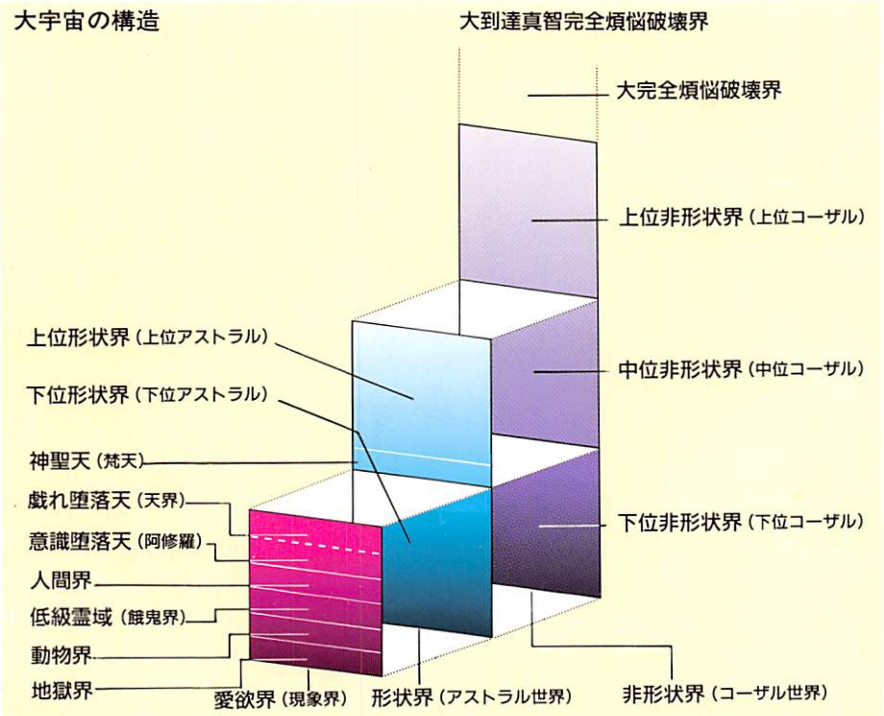
しかし、そのステージに到達するためには、大変楽しいが長い時間をかけた修行が必要だ。よって、ここではイラストを利用して皆さんの即理解できる正しい異性の見分け方を話したいと思う。

しかし、いくらこの色彩による正しい異性の選び方の法則を理解していたとしても、皆さんの運命というのは、特別な意識レベルの変化がない限り、カルマの力の方が勝つ。その点はご了承願いたい。

◉光沢は人生の方向を決める

人生の歩き方については、大きく分けて二つのタイプがある。その第一のタイプは、上昇志向型であり、もう一つは安定型、または堕落型である。

この現象の世界＝愛欲界（欲六界）〈地獄・動物界・餓鬼界・人間界・意識堕落天・行為戯れ堕落天〉において、光や光沢というものは、その人の生きざまを表わす。


大宇宙の構造
大到達真智完全煩悩破壊界
大完全煩悩破壊界
上位非形状界（上位コーザル）
中位非形状界（中位コーザル）
下位非形状界（下位コーザル）
上位形状界（上位アストラル）
下位形状界（下位アストラル）
神聖天（梵天）
戯れ堕落天（天界）
意識堕落天（阿修羅）
人間界
低級霊域（餓鬼界）
動物界
地獄界
愛欲界（現象界）
形状界（アストラル世界）
非形状界（コーザル世界）

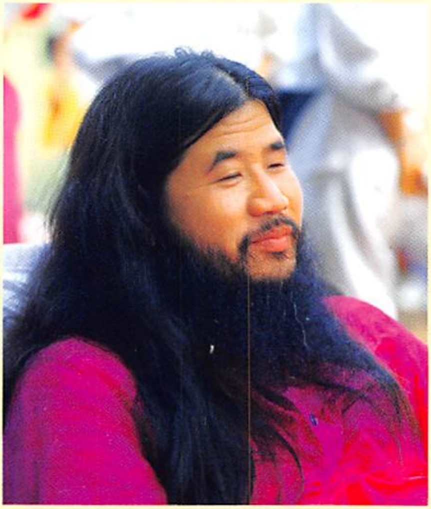
例えば、ここに、一人の貧しい若者がいたとして、彼が光る衣装を身に着けていたり、光沢のある衣装を好むという傾向があった場合、その時点での彼を評価するべきではないのである。なぜならば、彼は、「燕雀いづくんぞ鴻鵠の志を知らんや（小人物には、大人物の心中は到底わかるはずがない）」タイプの人物であり、生きることに大いに希望を持ち、自己拡大欲求、上昇志向、そのためには努力をいとわないといったタイプだからである。

したがって、このタイプの青年は、あなたが豊かな生活や権力を有した生活、名誉ある生活といったものを求めるタイプであるとするならば、その願望をかなえてくれる異性としての第一の関門は通過したこととなる。

しかし、このタイプの青年には、当然欠点も存在している。

その青年は、物事を考える場合、一般には連続的思考が最もよいとされているのであるが、その思考ペースから外れ、飛躍的なものの考え方を行なう。そして、ムラ気であり、快楽型であり、このタイプと結婚を考える場

合、浮気の十や二十は覚悟しておいた方がよい。
また、彼がどの道をたどってこの世において成功しようと志すかについては、彼の好みの色を知る以外に術はないことになる。



黒

黒は地獄？それとも愛欲界の魔王？

BLACK

黒は最も光を吸収する色である。光を吸収するということは、光の反対側のものということを意味している。つまり、この黒色は、あらゆる面での煩悩（ぼんのう）的欲求の象徴なのである。そして、これも同じように光を放つ黒（光沢のある黒）、光を放たない黒の二種類に分類することができる。





◉光を放つ黒

光を放つ黒は、煩悩を周りに拡散する。つまり、いろいろな欲望の対象を周りにばらまき、その欲望の対象に引きつけられたものは、その対象によって支配したいと欲しているのである。

ところで、仏教においても、キリスト教においても、マーラ（悪魔）の存在を経典や聖書によってうかがい知ることができる。わたしは何度もこの悪魔の軍勢と対決し、勝ったり負けたりしたものである。

ここで悪魔の本当の正体を皆さんにお話ししたい。この悪魔の正しい意味は、愛欲界の王なのである。愛欲界の王の性質は、自分自身は功徳を積み、そして高い世界を志向し、そこへ至る。しかし、周りの者の善行や功徳に対しては、嫉妬し、ねたみ、邪魔をするのである。なぜかというと、彼は、この愛欲界の構成をよく知ってお



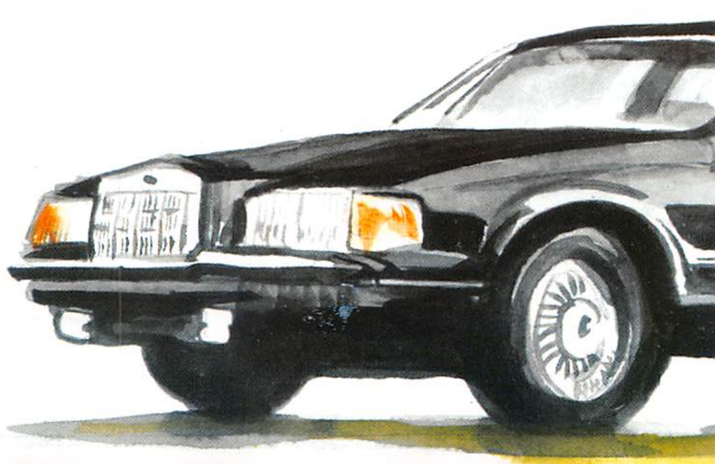
り、もし自分以上の功徳を積む者が現われたら、その者の力は強大となり、自分の地位が危うくなるからなのである。

よって彼は自分の配下の魂に対して、いろいろな煩悩を満たすことを約束し、充足させることによって、その配下の魂を使い、徳を積もうとしている魂の邪魔をしたり、あるいは自己の地位を脅かそうとする魂を攻撃するのである。

このことからもわかるように、光沢のある黒を好んだり、着用したりする青年は、支配欲が強く、権力志向が強く、支配のためには、あらゆる手段を使うタイプなのである。

ゆえに、一生強い人に依存し、物質的に、あるいは煩悩的に満足のいく生活を営みたいと考える人にとっては、この色と光沢を兼ね備えた人は最高ということになる。

しかし、この光沢のある黒を好む人は愛がなく優しさがない。大変冷たいのである。よって心の平静と平安は



この青年からは一生得られないであろう。

ところで、一昔前の会社の重役や代議士等が乗る大型乗用車の色が、なぜ光沢を放つ黒であったかご理解いただけたと思う。つまり、あの車の色こそ、欲望世界における支配者の色だったのである。

◉光沢のない黒

次に光沢のない黒についてお話ししよう。まず初めに、光沢のない黒を選ぶ人は、この世で〝えんじょい・はぴねす〟したいと考えている人にとって天敵である。つまりこの人は死魔にとりつかれ、生命エネルギーが弱く、物質的傾向が強く、暴力的、排他的であり、大変な邪悪な心を有している。

しかし、この人の心は大変平静である。なぜならば、この世において何の目的も希望もないからなのである。

そして、この黒色こそ、地獄から射し込んでくる光な

のである。

ところで、葬式には喪服がつきものである。そして、その喪服は黒と相場が決まっている。しかし、これは日本だけである。仏教伝来の地インドにおいては、お坊さんもそのような格好をしないし、また喪に服している人もそのような服を着ない。ではなぜ喪服の色は黒なのだろうか。

これには二つの理由がある。それは昔の霊能者が人の死を見る際、死ぬ人が闇に入り、黒い光に包まれていくのを千人中九百九十九人見たからに他ならない。これは、ほとんどの魂が地獄に落ちることを意味している。

つまり、この喪服の色は最も縁起の悪い色なのである。



虹色

虹色はエネルギーの強さのバロメーター

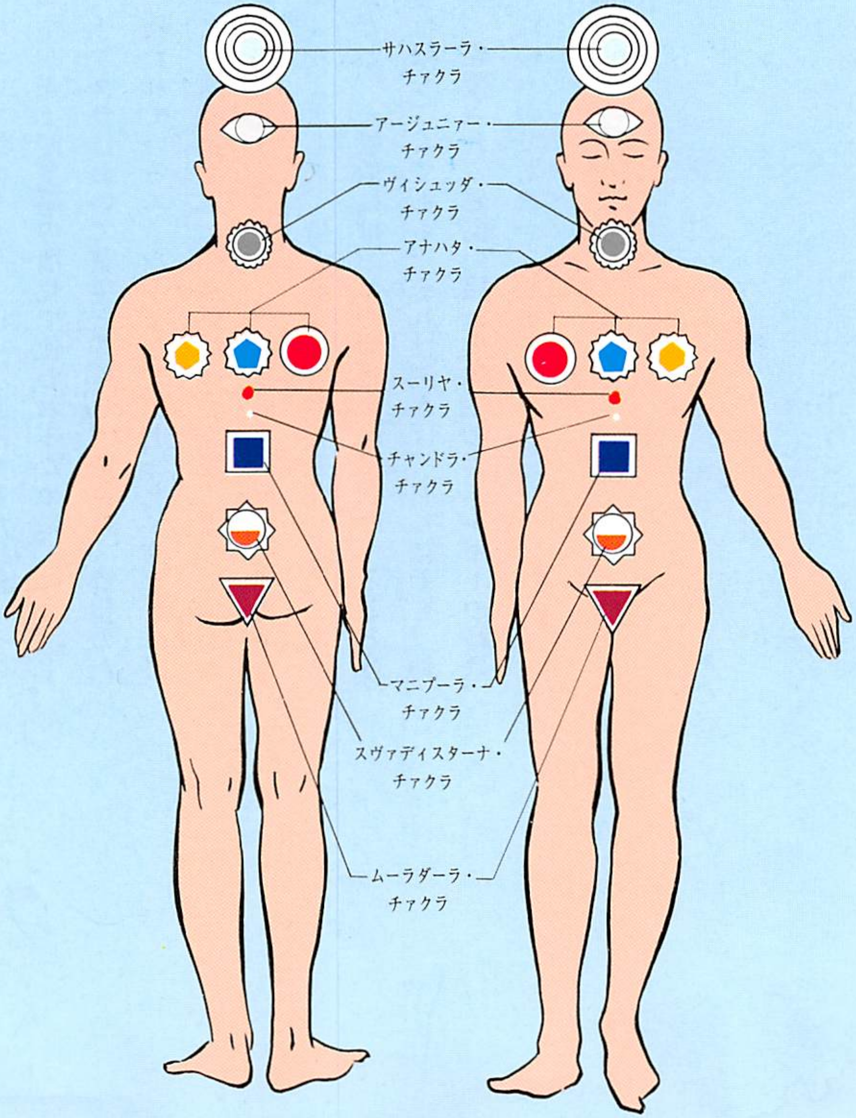
RAINBOW COLOR

読者の皆さんは虹の色が順番にエネルギーの強さを表わしていることをご存じだろうか。そして、これは、ヨーガ理論におけるエネルギーの強さとも密接に関係しているのである。

それでは、そのエネルギーの強さにおける色の順番をお教えしよう。次のとおりである。

赤　橙（だいだい）　黄　緑　青　藍（あい）　紫（青紫→赤紫）

そして、これは、尾てい骨に眠る根元的生命エネルギーの光、赤。その光が第二番目のスヴァディスターナ・チァ



人体にある霊的センター「チァクラ」

クラにおいて性エネルギーに一次変換された橙色、その性エネルギーが食事の消化で使われるために、マニプーラ・チャクラにおいて黄色と変化し、黄色い、消化のために使われているエネルギーが、アナハタ・チャクラにおいて三次変換され、生体活動エネルギーとして使われる緑色に変化する。そして、神秘的な世界に至るためのエネルギーとして、青→藍→紫と喉で変化するのである。

ただし、一般的には、この順番だけで判断することは大変危険なことである。それは例えば、同じ緑でも、動物界に象徴される妥協の緑と生体活動エネルギーの緑は、全く別のものであるからである。



赤

赤、それは慈愛から怒りまでを表わす

RED

赤には、大きく分けて四つのタイプがある。光を放つ透明な赤、光を放つ濁った赤、暗いが透明な赤、暗くて濁った赤である。

それでは、これから、この四つのタイプの一つ一つについて説明しよう。

◉光を放つ透明な赤

チベット仏教の僧衣は赤を基調としている。これは、チベット仏教の教えがアミターバ（阿弥陀如来（あみだにょらい））によって説かれたものであるとされ、そして、チベット仏教の最

高の悟りの状態は、アミターバと合一することであるとされているからである。

アミターバのシンボル・カラーは光った透明な赤であり、その意味合いは、純粋な智性と、慈愛である。つまり、透明な光った赤は、すべての魂に対する心からの慈しみの心——愛と慈しみ、そして、それを支える智性ということになる。よって、この色の服を好む人は、智的で優しいから、安心してついてゆけるタイプということになる。

しかし、この光は、形状界（色界（しきかい））と密接に関係があるので、結婚してもいつその人が現世を出離し、出家するかわからないということをつけ加えておこう。



◉光を放つ濁った赤

この光と色彩を好む人は、大変智的ではあるが、性欲の強い人ということになる。このタイプの人とのつきあいは、濃厚なセックスだけが二人をつなぐ強いきずなであり、また、その相手も強いセックス・アピールを有している。しかし、この人は愛欲界に属し、感情の揺れが激しく、愛著（あいじゃく）と嫌悪といったような両極端の性質を備えているのである。したがって、うまくいくときは愛著優位になるがゆえにそれでもよいが、いったん関係が壊れそうになると大変な恐怖を味わうこととなる。

一般に、この色と黒との両方の色を好む場合、刃傷沙汰が多いのである。



◉暗い透明な赤

このタイプの人は大変知的である。しかし、ここでいう知的というのは、知識コレクター的な知的なのである。しかし、彼には、知識を完全に使いこなせるだけの徳性は存在しないのである。つまり完全な秀才型が多い。そして、このタイプは光が強くならない限り、決して出世は望めない。つまり、学校で優秀なだけである。もし、こういう彼を持っていたら、できるだけ一流企業に就職させるべきである。そこで一つのパートを担当するのに向いているからである。

◉暗く濁った赤

この色は、まさに性欲の色である。このタイプの色を好む人は誘惑に弱く、そして無智（むち）である。無智であると

は、知的優秀性が存在しないことを意味しているのである。それゆえに、考えることもできず、情報に流され、性欲のことだけをいつも考えているのである。したがってこれをお読みのあなたが、真面目な人であるなら、このようなタイプの人を恋人として選ぶべきではない。



天の光

今生はぴねす、来世もはぴねす四天界

LIGHT OF HEAVEN

仏教には、いろいろな天界の分類法が存在している。その中の一つの分類法は、天界を四つに分ける方法である。この四つとは、下から順に、かすかな光の愛欲神天・無量の光の愛欲神天・混じり物のある光の愛欲神天・欠点のない光の愛欲神天である。

現代の日本人には、あまり聞き慣れないこの四つの天界の分類法は、サキャ神賢(しんけん)（釈迦牟尼如来(しゃかむにによらい)）の弟子の中で〝天眼(てんげん)第一〟〝来世を見る力第一〟と称され、サキャ神賢の大完全煩悩破壊（涅槃(ねはん)）のとき、ただ一人サキャ神賢の煩悩破壊のプロセスを透視し、神々の意向を理解し、それをサキャ神賢の弟子たちに伝えて実行させた大



聖者アヌルッダの分類した方法である。
この四つの天界の意味合いは、

①かすかな光の愛欲神天

人間界より高い世界ではあるが、徳の差は人間界とあまり変わりない神々が住んでいる世界である。この世界の魂の寿命は、煩悩的であるか、禁欲的であるかによって違ってくる。煩悩的である場合は寿命が短く、禁欲的である場合は寿命が長い。

②無量の光の愛欲神天

この世界の神々は、大変な徳の持ち主である。サキヤ神賢が生まれたとき、アシタ仙人(せんにん)が、「この魂は、転輪(てんりん)王(おう)になり四つの大陸を統治するか、あるいは真理勝者(如来)となり大救世主となる」と予言したが、アシタ仙人の見た光は、まさにこの無量光だったのである(この話は後世の異説であるが……)。



しかし、あくまでも光は徳を表わすのであって、その無量光の魂がどのような生き方をするかは、その光が煩悩的であるか、あるいは清澄であるかによって違ってくるのである。もし、煩悩的な光であれば、転輪王としてその生を活躍するであろうし、もし清澄な無量光であれば、真理勝者として多くの魂に煩悩破壊させるであろう。アシタ仙人がサキャ神賢に教えを乞いたいと真に思ったのは、アシタ仙人が光の強さは見て理解することができても、光の性質については見て理解することができないステージだったからである。

③混じり物のある光の愛欲神天

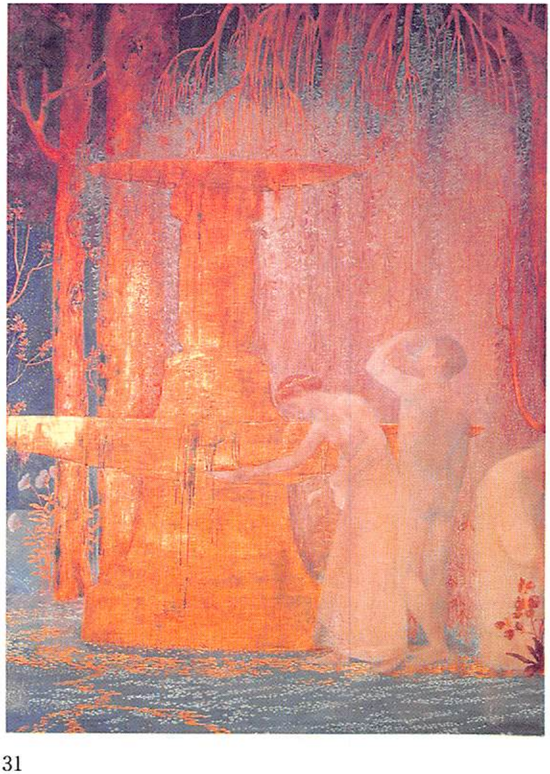
天界へ至るためには偉大な徳さえ積めればよい。そして、その混じり物のある光の愛欲神天は、煩悩を満たしながら偉大なる徳を積んだ魂の行く神々の世界なのである。したがって、混じり物のある光の愛欲神天の特徴は、功徳の消耗が激しいところである。

④欠点のない光の愛欲神天

この天界には、真面目な真理に基づいた戒律を遵守する魂が住んでいる。

また、ここは最も高い天界なのである。なぜならば、魂が清らかだということは、現象を正確に映し出すことができるということに等しいのである。そして、それは、現象を正確に自己の心の中に映し出すということであり、その背景に潜む真理の法則を使いこなすことができるということに他ならない。つまり、真理の法則にのっとって生きることこそ、最上の天界への道なのである。『転輪獅子吼経』によると、天の輪宝（この輪宝の所有者は四大陸を統治することができるといわれている）の意味合いは〝利益を引き起こす最高のものとして、真実を見極める眼をもたらす〟とある。つまり、すべての世界を通して最高のものは、真実を見極める叡智なのである。そして、この天界の魂は、それを有しているのである。

わたしが、ここで四つの天界の説明をしたのは、「色別恋人判定法」と深い関わり合いがあるからである。つまり、天界という上向傾向の世界の魂にも四つのタイプがあるということなのである。そして、心の清らかな人こそ現世においても最高の伴侶となるのだということはいうまでもない。



橙

愛欲界の色、それは橙（オレンジ）

ORANGE

この橙色には大別して光を放つ透明な橙色、光を放つ濁った橙色、暗いが透明な橙色、暗くて濁った橙色の四種類がある。

この橙色は、純粋に生まれつきの生命エネルギーを表わしており、その人が性的にどのような生き方をするかを見ることができるのである。

◉光を放つ透明な橙色

インドへ行くと、この橙色の透明感のあるルンギーとガムチャというシルクの布を体に巻きつけている聖者に

愛欲界の色、それは橙（オレンジ）



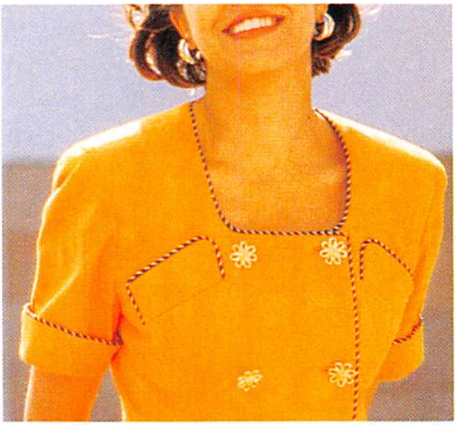
出会うことがある。この光を放つ透明な橙色というのは、ヨーガ修行者の到達地点を示しており、これは、『えんじょい・はぴねす』の「宗教は一つの道」の中に書かれている戯れ堕落天の中で、ほんの少しだけ煩悩を有している魂に相当するのである。

つまり、結婚して楽しい家庭を築きたいあなたにとって、この色を好きな異性はあまりそういうことに興味がないので要注意ということになる。

しかし、この色は、精力もまた表わしている。性エネルギーを昇華し、インド・ヨーガの目的であるクンダリニー・ヨーガの成就をするためには、絶大な性エネルギーが必要なのである。

これは、恋人を性的に十二分に満足、いや飽和状態にさせてくれるほどの精力と性欲の持ち主だといっても言い過ぎではないほどである。

したがって恋人としては最高だが、結婚相手としては不適格ということになる。



また、この色は活動力を表わすから、この異性は活動的、積極的、仕事熱心と見てよいだろう。

◉光を放つ濁った橙色

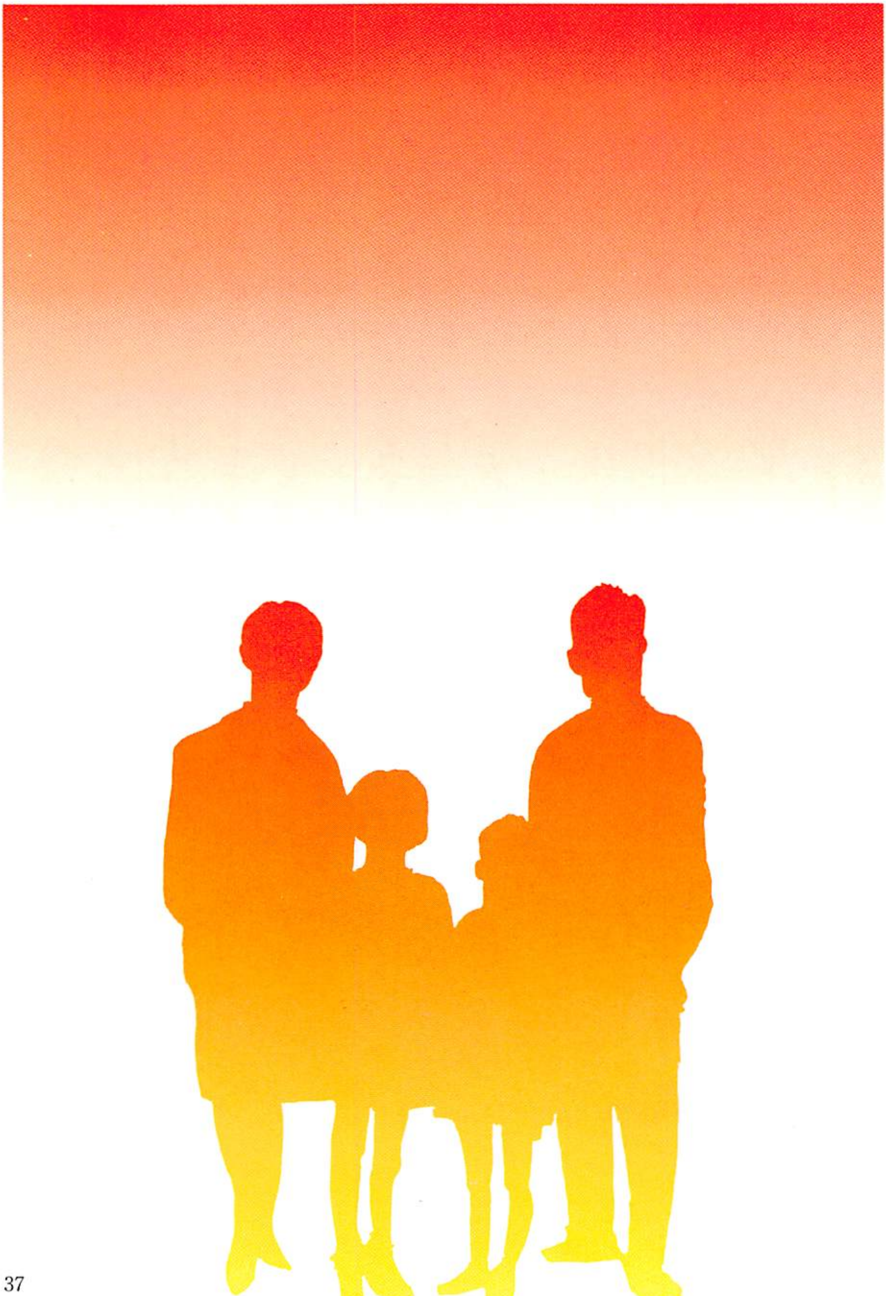
前号でもお話ししたとおり、わたしには七百名以上の出家した弟子がいる。当然これだけの人数がいるわけだから、戒律をしっかり守る人がいる反面、戒律をあまり守らない人がいても不思議ではない。

そして、戒律をあまり守らない成就者のタイプがこの色を好み、また彼ら自身この色を放っているのである。彼らは、大変真面目に行を行ない教団に対する奉仕活動も一生懸命行なう。しかし、もともとこの性欲のエネルギーである橙色に濁りがあるため、完全なる昇華、そして光へと還元するプロセスがうまくいかないのである。

よって、活動的ではあるが、性エネルギーを智慧（ちえ）へと還元することができず、智性において欠落が生じるので

ある。
この光り輝く濁った橙色を好む異性は、精力絶倫、性的に遊び上手、浮気型、異性に優しい、智性はそれほど高くないがプライドは高いなどの特徴を持っている。
わたしがなぜここで浮気型という言葉を使ったのかというと、実際に浮気をするというより、イメージの世界においていろいろな異性と交わることを楽しむタイプなのだからである。
この色を好む異性は一見マイホーム型であり、子供に対する執着も強いのである。したがって、良き伴侶となる異性に見えがちだが、今述べたように彼や彼女の行動とイメージが別々に進行しているのだから、行動だけを見て安心したら青天のヘキレキの結果を招きかねない。
なお、このタイプの異性に対しては、絶えず綺麗で上品な言葉を語り、ムードを作ることに心がけるならば、素晴らしい恋愛、素晴らしい結婚生活が約束されるだろう。

愛欲界の色、それは橙（オレンジ）



◉暗い透明な橙色

この暗い透明な橙色を好む異性は、性的に潔癖で、禁欲生活を好んだり、恋愛をしたとしても一人の人に集中する。また、平凡な恋愛や結婚生活を考えている読者諸氏にとって最高の相手なのである。

ただこのタイプは性的に大変淡泊で、体もあまり強くなく、仕事についても、決められたこと以上を望むことは難しいのである。まさに、家を守る貞節な妻、貞節な夫という感が強い。

このタイプの異性と交際するためには、ただ真面目に、誠意をもって接するのが一番である。

◉娼婦の色――それは暗く濁った橙色

わたしは今まで十万に近い数の人の相談を受けた。そ

の中には当然会社の社長もいれば水商売の仕事に従事している方もいた。水商売の中でも特に娼婦（しょうふ）を職業としている人は、決まってこの暗く濁った橙色を放っているのである。そして、この職業につきものの堕胎を行なっている人は、その堕胎した数によって鈍い黒色を放っているのである。

つまり、この暗く濁った橙色は、性的にけがれた色、あるいは、みだらな色と言い換えることができる。

そして、当然この暗く濁った橙色を放つ異性の生命力は弱く、そのため、そのエネルギーが昇華され叡智へと還元されることがないため、人生における直感的判断が鈍り、決して幸福になれないことは確かだろう。

わたしは信徒の相談をシークレット・ヨーガという形で受けている。あるとき、相談にきたS子さんは、マントル嬢として働き、この十年間、月に三百万ほど稼いでいたそうであるが全くお金は貯まっていなかった。

わたしは彼女のバルドー（心の発する光の色）を見、



彼女のバルドーが暗く濁った橙色であることを知ったので、
「あなたは必要のない物を衝動的に買い、それを使わないでため込んでいるでしょう。」
という話をした。彼女はわたしの言葉によって、ストレスによって衝動的に物を買い、それによって少しも貯金できないのだということを認識した。
　これからもわかるとおり、この色を好む人は、衝動的であり、ストレスが多く、決して幸福になれないのである。
　しかし、娼婦の色イコール暗く濁った橙色でもわかるように、単に性欲を満足させるための恋人や妻を望むのなら、この色を好む異性でも十分であろう。ただ、この異性によって、少なくとも晩年の生活は、何度となく破局に近い状態が待っていることを疑う余地はない。
　智慧ある読者は濁りの意味合いについて理解できたはずである。つまり、この濁りこそはその人のなした経験



であり、例えば、暗く濁った橙色といった場合、お金をもらうことが第一の目的の性的サービスを経験としてなした、つまり、肉体の快楽をお金のために売ったという経験の蓄積によって暗く濁った橙のバルドーの色を娼婦の方々は呈するのである。

　では現代の一部のフィリピン人の娼婦や、江戸時代、借金の肩代わりで遊廓（ゆうかく）に身を売らねばならなかった人たちのバルドーの色はどうなのであろうか？

　それは、その人たちの心が父母に対する愛情や、あるいは、自己の利益にならない娼婦としての生活だっただろうから、この暗く濁った橙色を呈することはない。あくまでも、自己の金銭的、物質的欲望を満たすために体を売った人のバルドーの色が暗く濁った橙色なのである。

　最後に、この色を好む異性とのつきあいにおける注意点を言うなら、彼や彼女が自己の利益のために身を売ったり裏切ったりするのは当然であると納得した上でつきあうべきであるということである。



黄

黄色、それは貪りの色

YELLOW

◉光を放つ透明な黄色

成功の背景には、この透明な光る黄色が不可欠である。必ず大事業を成し遂げた人はこの光を発しているのである。この光の意味合いは、強靭（きょうじん）な意志を持ち、財物の布施を限りなくなしたということを表わしている。

ところで、仏教のシンボル・カラーは黄色である。この黄色は仏教の出家修行者たちが過去世において強い意志を持ち、大いなる財物の布施をなしたということと、その結果として仏弟子となったときに黄色い衣を羽織り、



強靭な意志を有し、前世の布施の果報として布施を受けるに値することを表わしている。

また、この光を放つ透明な黄色は、密教部においても、五仏の一つであるラトナサンバヴァ（宝生如来（ほうしょうにょらい））を象徴する色に数えられている。ラトナサンバヴァは宝生——つまり、宝を生む仏として礼拝の対象となっている。

したがって、透明な光る黄色を好んで着る人は、意志力が強く、未来において必ずあなたを成功した事業家の妻にしてくれるんだと確信を持っていいだろう。

●光を放つ濁った黄色

光を放つ濁った黄色を着ている人は、気前はいいが貪（むさぼ）りの強い、しかも自己主張の強い人が多い。

もともと、この光を放つ濁った黄色はエゴの象徴として用いられる色であり、心の内なる要素を透視すると、確かにエゴは黄色い、少し濁った光った輪として見るこ

とができる。

今から五年前、ある弟子に強烈なイニシエーション（霊的なエネルギー移入）を行なったことがある。その弟子はもともと貪りが強く、大変自意識が強かった。頭頂からエネルギーを入れると、濁ってどんよりとした黄色い輪がずっと見え続けていたのである。

彼は、そのエンパワーメントによって解脱を得ることができた。しかし、解脱をした後、シャクティーパット（イニシエーションの一種）を信徒に対して行なった彼は、また煩悩を生起させ、貪りによって現世へと落ちていってしまったのである。

ただし、この色は貪り＝愛着の象徴であるから、自分自身の気に入った者に対しては、徹底的に尽くすはずである。したがって、物欲主義的な人生観を大切にしている人たちにとっては、格好の相手だと思われる。



◉暗い透明な黄色

この暗いが透明な黄色を好む人は、布施をしない代わりに物欲もなく、意志の力が強い人である。心には否定的想念が多い。ただし、自分の専門分野に対しては大変強いものである。

インド・ヨーガの修行者の衣に、ルンギとガムチャと呼ばれるものがある。ルンギにしろガムチャにしろ、一枚の布で作られており、それをうまく上半身と下半身に巻きつけて衣とするのである。

このルンギとガムチャの色が、ステージを表わしているんだということを、わたしはインドへ行ったときに聞いたことがある。そして、暗いが透明な黄色は、まさに出家修行の入門者が着る色なのである。

これはなかなか興味深い。なぜならば、現代のインド・ヨーガの王といわれているものはラージャ・ヨーガであ





り、これはまさに精神集中＝意志のヨーガなのである。

そして、入門者が物欲を捨てて出家したこと、また、徳がまだ備わっていないがゆえに布施を受けられないことを考えると、まさにこの色がぴったりであるといわざるを得ないのである。

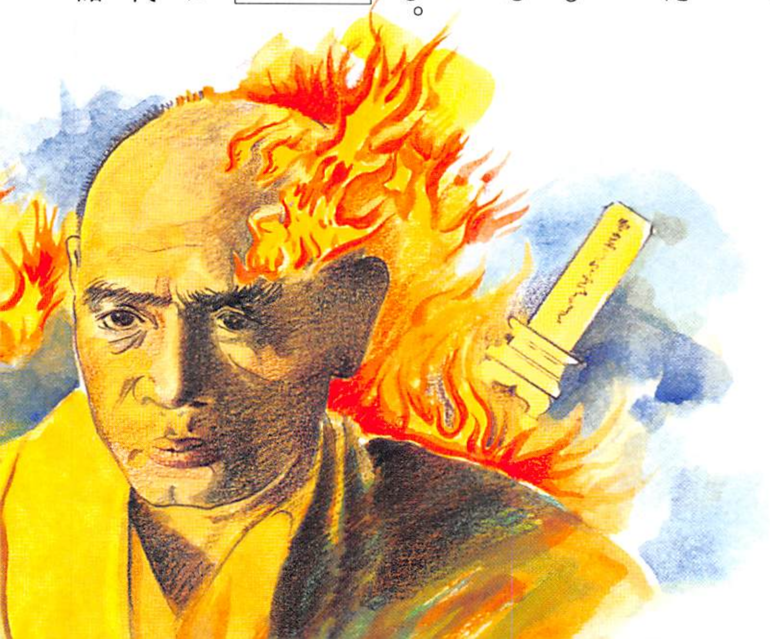
よって質素な夫婦生活を営みたいと考えているあなたにとって、この相手は最適かもしれない。

しかし、この相手は自制だけでなく、他人に対しても制約を加える可能性が高いことを知っておく必要があるだろう。

つまり、禁欲的な生活を望む相手として最適なのである。

●暗く濁った黄色――まさに霊能者の色

暗くて濁った黄色の説明に関連して、愛欲界の構成について触れておかなくてはならない。なぜならば、現代の仏教徒が、あまりにも無智なるがゆえに、結果的に諸



現象の説明ができないという哀れな状態をつくり出しているからである。

例えば、ある号の『月刊宝石』にオウム真理教と幸福の科学に対する批判記事が載っているのを見た。結局わたしが興味あるところは、オウム真理教に対する批判内容であったわけだが――まあ、その批判内容は取るに足らない内容なのでここには書かないが――ここで登場した佐伯真光氏（湘南工科大学教授）、浅見定雄氏（東北学院大学教授）の仏教に対する無智について少し説明したいと思う。

もちろん、浅見氏は旧約聖書学を専攻しているらしいから、仏教の門外漢であるといわざるを得ないので彼の発言はさておき、問題なのは佐伯氏の発言である。彼は真言宗の僧侶であり、大学教授であり、仏教徒であるというのに、霊の問題について、

『霊とは何か』（大法輪閣）という本に五十～六十人の



宗教学者、仏教学者がそれぞれ答えを書いているわけです。みんな違うことを言っている。定説はない。結局、仏教は霊というものについては不可知論です。私もこの意味では不可知論者ですけれども、ただわからないと言っている懐疑論ではなく積極型不可知論者。

と語っているが、これは大きな誤ちである。

もともと日本の仏教には餓鬼(がき)という言葉があるが、この餓鬼はサンスクリット語でプレータと表現され、低級霊域を表わしているのである。

彼は、仏教学者として、僧として、そしてインテリゲンチアの代表として、このような発言をしたのだろうが、彼の過ちは大変大きなものであり、この雑誌を読んだ多くの人に正しくない仏教観を植えつけてしまったであろうことは間違いない。

なぜこの項においてこの問題を取り上げたかというと、まさに暗くて濁った黄色が餓鬼、すなわち低級霊域の色



だったからである。

また、ここで愛欲界の説明をきちんとしておくことにより、完璧な真理を体現なさったサキャ神賢が、いかに正確な言葉を使っていられたかということを皆さんに知っていただきたかったからである。

次にわたしが述べる内容は、わたしの体験が仏典どおりだったということから、その正確さを裏づけるものである。

今から一年以上前、サマディ[※1]（三昧）に入り、死生智[※2]の女神として転生し、わたしの弟子の一人が餓鬼として転生して彼女に仕えているヴィジョンを見た。

そこでわたしには一つの疑問が生じた。というのは、第一天界の神と餓鬼とが同じ世界に存在していたからである。

わたしは、常々、仏典の翻訳が完全になされるにしたがって、わたしのサマディ体験はすべて説明がつくと考

※1　瞑想の究極状態。
※2　転生先を知ったり、生きながらにしていろいろな世界とつながる神通力。

えていたが、この体験についても今年になってその回答を得ることができたのである。
つまり、わたしが、彼女が第一天界の女神だと見て直観したのは正しく、彼女は第一天界の人喰い鬼神の女神だったのである。なぜならば、パーリ仏典のプレータの説明において、〝このプレータは低級霊域に存在し、第一天界の人喰い鬼神に仕える〟と述べられていたからである。
ところで、マハー・ケイマ正大師も、昨年の終わりだったか、今年の初めだったか、自分自身が大変大きな身体を持ち、人を食べる経験をしたと話していたものである。つまり、わたしの見たものと彼女の経験も一致していたのだ。
また、今から五、六年前の話であるが、わたしの妻であるヤソーダラーの霊界には、たくさんの俗にいうところの〝かわいい猫〟が存在しており、彼女の心が乱れているとき、決まってわたしはその猫たちに噛まれたのである。
わたしは彼女の来世を見て、彼女が修行しなければ、来世は猫神様、つまり成長天※の侍神に転生すると話して





※　第一天界の1パート

いたわけだが、それも今年の仏典研究によって間違いなかったという確信を得たのである。

これからもわかるとおり、まさしく日本の仏教でいおれている餓鬼の世界こそ霊の世界であり、低級霊界は存在するのである。

そして、それはとりもなおさず、オウム真理教で説いている三界の構造（7p図参照）が正しいことを意味しているのである。つまり、この低級霊域こそ、下位アストラルなのだ。

したがって、佐伯真光氏の言っている「仏教徒は霊に対して不可知論を唱える」というのは真っ赤なウソということになる。

また、これはこのような人が僧侶であり、また教授として社会の評価を得ている日本の実情、つまり仏典研究の遅れにこそ大きな問題があるのである。

では、この低級霊域に転生した魂はどうなるのかというと、この魂はいずれ地獄、動物界、人間界等へ転生す



るのである。
仏教は心の表われである。そして、この愛欲界もすべて心の働きということで説明がつく。
例えば、地獄は正確に訳すと激苦地獄と表現され、これは大きく分けて三つのパートに分類することができる。
もちろん、これをより細分化することもできるが、それはこの論題と反するので、この三つの分類法にとどめておく。
第一番目の地獄は、邪悪心を背景とした地獄である。現代的な言葉を使うならば、激しい憎しみの集積の世界がこの世界であり、これが熱による激しい苦しみの世界として表現されている。
第二番目の地獄は、冷淡さの集積によって形成されている世界である寒冷地獄である。この寒冷地獄へ至る魂は、例えば堕胎を平気で行なう女性だとか、人を冷酷な策略によって陥れる人が行く地獄である。そして、この地獄では寒冷によって激苦を受けるのである。
第三番目は、激しい憎しみや冷淡さはないが、生計を



立てるために多くの生き物を殺す人たちの行く地獄である。この地獄は、剣や針などといった金属の刃物で激苦を味わう地獄なのである。

そして、地獄全体の様相は、これら三つのヴァリエーションで成り立っているのである。

下から二番目の世界は、動物の世界である。わたしがサキャ神賢を偉大だと感じるのは、動物の世界へ転生すると言わず「動物としての発生」という言葉をサキャ神賢は使っていらっしゃるということである。

この動物としての発生は、動物として生まれ出るということであり、わざわざ魂が人間として生まれる人間世界と区別しているのである。つまり、同じこの愛欲界に生まれ出るにしても、動物の方がより粗雑であるということを言外に含めているのである。

現代の生物学においても、〝発生〟という言葉を使っているのは興味深いことである。

ところで、この動物としての発生へと至る心の機序は、



根本的無智を背景としている。つまり、低級霊域にいた魂が、より具体的満足を得ようとしてこの動物の世界へと発生するのである。

下から三番目の世界が低級霊域である。この低級霊域は、二つの魂の構成から成り立っている。

第一のパターンは、愛欲を有している魂で、具体的な、例えば動物としての発生とか、人間世界とか、はっきりと特徴が固定されていない場合である。

第二のパターンは、具体的な世界よりイメージの世界を好む魂で、愛欲を有している場合である。前者の方が後者よりこの低級霊域から他の世界へ転生するスピードは速い。

さて、第四番目の世界は人間界である。よってこれは説明の必要もなかろう。

第五番目は意識堕落天である。この意識堕落天は別名巨人族ともいい、子宮転生である。この世界は、現代の人間世界の理想的なモデルケースともいえる世界であり、



また宇宙人イコール意識堕落天としても構わない。

愛欲界の最高位に属するのが戯れ堕落天である。この世界は大きく分けて六つあるが、その一つ一つの説明を詳しくしてもここではあまり意味がないので、それぞれの欲望に応じた最高の世界という定義にとどめておきたいと思う。

例としては、徳を積み、性的欲望を満足させたいと願う魂はナーガ（龍王）へと生まれ変わり、徳を積み音楽へとふける魂はガンダッパ（花香居半神音楽神）へと生まれ変わり、徳を積み食にとらわれている者は人喰い鬼神として生まれ変わり、徳を積み舞踏を好む人はクンバンダ（所有壷形強力生殖器妖精）へと生まれ変わるのである。

さて話を元に戻すが、これらの話からもわかるとおり、濁った暗い黄色は低級霊域の象徴であり、決して恋や結婚の対象として選んではいけない相手なのである。

緑

緑は妥協

GREEN

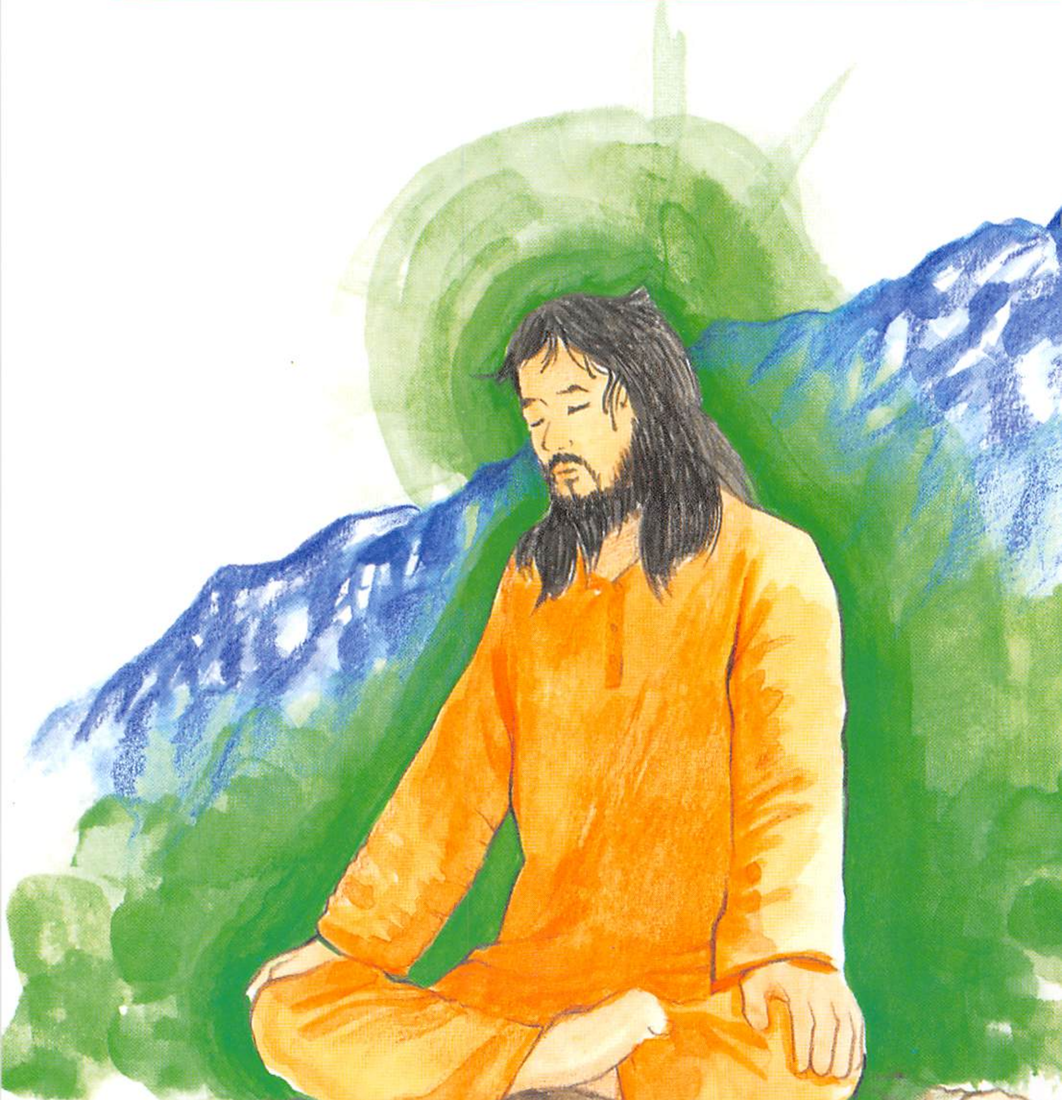
◉光を放つ透明な緑——偉人の条件

オウム真理教には極厳修行（きょくげんしゅぎょう）というものがある。これは各段階の成就、つまり決められた各段階の条件をクリアさせるために行なわれるものである。

例えば、クンダリニー・ヨーガの成就の判定基準は、次の四つの体験である。

①意識の連続

これは、二十四時間途切れることのない意識を持ち続けることの達成である。



②光への没入

これはわたしたちの身体に存在している三つの気道の浄化の度合いを計る基準として設けられたもので、黄金色、白銀色、ブルーの三つの光に没入することである。

③化身の体験

これは五法身の体験ともいわれ、へそから抜け出す変化身の体験、胸から抜け出す法身の体験、喉から抜け出す報身の体験、眉間から抜け出す本性身の体験、頭頂から抜け出す金剛身の体験である。

④空中浮揚

これは、ダルドリー・シッディと呼ばれるカエル跳びではなく、究竟と呼ばれる瞑想中に身体のエネルギーが頭頂に集まり、無意識のうちに体が持ち上がるというものである。

これら四つの体験の中で、全体を通していえることは、いずれも光を放つ透明な緑のエネルギーが、この神秘的



力の土台となっているということである。
オウム真理教において睡眠時間を取ることは恥とされている。もともと仏典の教えの中でも、睡眠はわたしたちの無明の現われであるとして、五つの障害に数えられている。つまり、わたしたちの本質を覆い隠している要素の一つなのである。そして、それを取り払うためのエネルギーこそが輝く透明な緑なのである。
ナポレオンが一日三時間の睡眠であったことをわたしは高校時代、世界史の授業で学んだことがある。そのときわたしは眠ることが好きで、
（三時間の睡眠で体が大丈夫なんだろうか）
とよく考えたものだ。
しかし、今わたしの弟子の中で、三時間以内の睡眠で、バリバリ修行とワークに励んでいる弟子は、ざらにいるのである。
それもすべて、この光を放つ透明な緑の力なのである。
ところで、この光を放つ透明な緑を好み、また、その



バルドー（ここでは、カルマの状態を投影している光）を持つ人は修行者以外存在しない。しかも、このタイプの修行者はあまりいないので、それを見つけることは至難の技であろう。

しかし、もし、このタイプの修行者と恋愛ができ、結婚することができるようになったなら、その人は大変幸せな運命を得たということができる。

なぜならば、この光と色は、すべての願望を達成する源であり、その人のそばにいるだけでも大きな変化が起こるし、それより深い関係、性的な交わりなど持とうものなら、肉体のけがれは浄化され、心の内に高い世界へ至るための種子を植えつけられることとなるからである。

また、この光を放つ透明な緑は、アモガシッディ（不空成就如来（ふくうじょうじゅにょらい））と呼ばれる密教の真理勝者の象徴であるということもつけ加えておこう。



◉光を放つ濁った緑――エネルギッシュ、しかし頭痛持ち

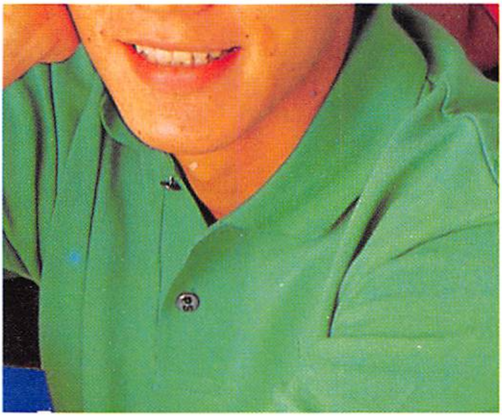
この光を放つ濁った緑は、強烈なエネルギッシュな活動力を表わし、また否定的であり、堕落した意識状態を表わす。

このタイプの人は、もともと大成功し、そして幸福になる可能性があるのだが、限界を試みるという習性が乏しく、特に努力という二文字については嫌悪の対象であり、全く無縁なことが多い。

したがって、この色を好む人と恋愛をすることは楽しいのだが、結婚する場合、相手の性格を完全に限界まで努力させるような教えの実践をさせない限り、幸福な結婚はあり得ないだろう。

ところで、この濁りは煩悩を表わし、特に性的な触覚における快感を貪る人に多い。また、この色を好む人は心変わりが早く、昨日泣いたり叫んだりしていたかと思

うと、今日はもう笑っているといったタイプである。
しかし、性格的根っこは大変深く、楽しいことや幸せな感覚はすぐに忘れるのだが、人生における暗い部分や、批判的なことは大変よく覚えている。そして、オートリバースのテープレコーダーのように、過去のわだかまりを一つのパターンにしたがってグチるのである。
したがって、このタイプとのつきあいにおいては、こちら側が相手のグチを受け流すだけの大きな度量と、長い時間をかけて性格を改善させる努力をたゆまずやり続けることのみが、恋愛や結婚における成功のただ一つの秘訣ということになる。
もし、この色を好むタイプの人が限界までの努力を始めたら、光を放つ透明な緑を好む人の状態になるのが早い。光を放つ透明な緑と、光を放つ濁った緑の違いは、限界まで努力することと、上昇志向が存在するかしないかである。つまり、光を放つ濁った緑は現状維持型なのである。したがって、この色を好む人の適職は、労働組



合のしっかりしている会社のサラリーマンということになろう。

◉暗い透明な緑——動物界の支配者の色

この暗くて透明な緑と、次に述べる暗くて濁った緑は、相反する二つの性格を表わしている。この暗くて透明な緑は、まさに妥協の色であり、強い者に巻かれ、弱い者をいじめるという動物界における強者の色である。つまり、決して自分より強い者が間違ったことを言ったとしても、心の中にその相手に対する批判の感情があったとしても、恐れという感情を背景に従うのである。

このように、この色を好む人は調子がよく、上の者につけ入るテクニックを身につけている。また、自分より弱い者を権力によって支配することを好む。したがって、恋愛にしろ結婚にしろ、要注意なのである。

つまり、自分より強い者の欲求はすべてのむタイプな

ので、その動物的性格ゆえに流されて、いろんな異性との交わり、あるいは浮気を平気で行なうことが多い。また、お金に対する計画性もなく、借金を増やすのもこのタイプである。

加えて、このタイプの異性は集中力がなく、智性も低く、特に論理的思考に弱く、数学が苦手である。したがって、セックス・フレンド程度の遊びならともかく、それ以上の深入りをすべきではない。

しかし、今、おつきあいしている相手がこの色を好むようならば、徐々にデータを入れ替え、少しずつ哲学的思索をさせる訓練をすべきである。

ただ、このタイプは動物と同じであるから、こちらがあまり強く出ると食ってかかるので、決して感情的にならず、論理的に淡々と話すべきである。

人間には、自分自身にないものを求めるという性質がある。つまり、このタイプは落ち着いて淡々とした論理性を有する人を好むはずなので、その点に気をつけるな

ら性格改善もうまくいく可能性も高いであろう。

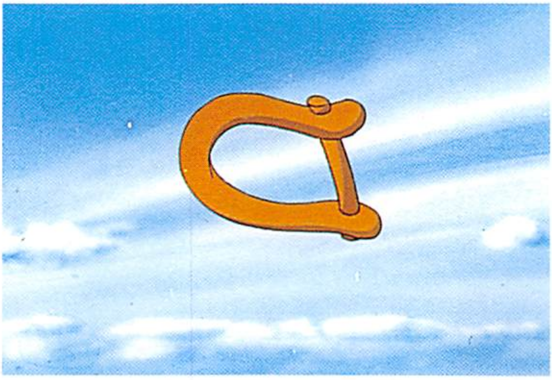
◉暗く濁った縁——わたしは、なぜいじめられるの？

仏典では、今わたしたちが生活しているこの人間界へ生まれ変わることがいかに難しいかということが次のように説かれている。

【四八】第八　穴の空間（三）

二　「向煩悩滅尽多学男たちよ、例として、この大いなる大地が一つの水であり、そこで男が一つの穴の空間のあるくびきを中に置くと、すぐに、東の風は西にかき集め、西の風は東にかき集め、北の風は南にかき集め、南の風は北にかき集めるとしよう。そこで、百の雨季の間ごとが経過してから一度ずつ浮き上がる、その盲目の亀がいるとしよう。

三　向煩悩滅尽多学男たちよ、これについてどう思う



か。そのとき同一に、その盲目の亀が百の雨季の間ごとが経過してから一度ずつ浮き上がり、まさにその一つの穴の空間のあるくびきに首を入れることがあるだろうか」と。

「尊師よ、その盲目の亀が百の雨季の間ごとが経過してから一度ずつ浮き上がり、まさにその一つの穴の空間のあるくびきに首を入れるということ、これは思いも寄らないことです」と。

四 「向煩悩滅尽多学男たちよ、このように、人の状態を得ること、これは思いも寄らないことである。向煩悩滅尽多学男たちよ、このように、供養値魂（くようちこん）・最上（さいじょう）正覚者（しょうかくしゃ）であられる真理勝者が世界に流転なさること、これは思いも寄らないことである。向煩悩滅尽多学男たちよ、このように、真理勝者が説き明かされた法則と修行が世界に顕著になること、これは思いも寄らないことである。

五 そして、彼にこの人間の状態が得られ、供養値魂・





最上正覚者であられる真理勝者が世界に流転し、真理勝者が説き明かされた法則と修行が世界に顕著になっているのである。

六　向煩悩滅尽多学男たちよ、だから、『これは苦しみである』と専心すべきである。『これは苦しみの生起である』と専心すべきである。『これは苦しみの滅尽である』と専心すべきである。『これは苦しみの滅尽に至る方法である』と専心すべきである」と。

これはわたしたちの心の働きが現象に対して正しく見極めることができないゆえに、多くの苦しみの因をつくり、その苦しみの集積が三つの下位の生命体、つまり地獄、動物、餓鬼へと結びつけ、苦しみの因の結果である、苦しみを受けなければならなくなるからである。

ところで、仏典の教えにしたがって、わたしは在家の修行の一つとして、自分自身で手作りの食物を出家修行者







であるわたしの弟子たちに供養することを常としている。

もちろんこのとき、わたしの弟子でもあり、娘でもあるシャクティー・ドゥルガー、シャクティー・カーリー、ウマー・パールヴァティー・アーチャリー、識華たちも手伝いをしたり、彼女たち自ら食物を作ったりする。

これは、一九九一年の十一月、イーストを使ったパンを作って弟子たちに供養していたころの話である。

わたしも娘たちも、手にケガをしたり、ヤケドをしたり、あるいは殴られたりするのである。わたしはその原因の検討に入った。すると確かにパンを焼き、供養した後、バルドーが濁るのである。

これが原因だったのかと気づき、イーストを使ったパンから、ベーキング・パウダーを使ったパンに切り替えた。それと同時に、その現象は消えた。これは、明らかにイーストを殺生したために起きた現象だったのである。

ところで、これと同じ現象が『旧約聖書』にあるので引用しよう。

【出エジプト記】

第一二章

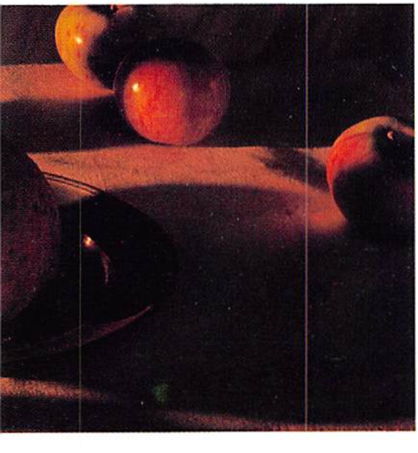
主はエジプトの国で、モーセとアロンに告げて言われた、「この月をあなたがたの初めの月とし、これを年の正月としなさい。あなたがたはイスラエルの全会衆に言いなさい、『この月の十日におのおの、その父の家ごとに小羊を取らなければならない。すなわち、一家族に小羊一頭を取らなければならない。もし家族が少なくて一頭の小羊を食べきれないときは、家のすぐ隣の人と共に、人数に従って一頭を取り、おのおの食べるところに応じて、小羊を見計らわなければならない。小羊は傷のないもので、一歳の雄でなければならない。羊またはやぎのうちから、これを取らなければならない。そしてこの月の十四日まで、これを守って置き、イスラエルの会衆はみな、夕暮にこれをほふり、その血を取り、小羊を食する家の入口の二つの柱と、かもいにそれを塗らなければならない。そしてそ





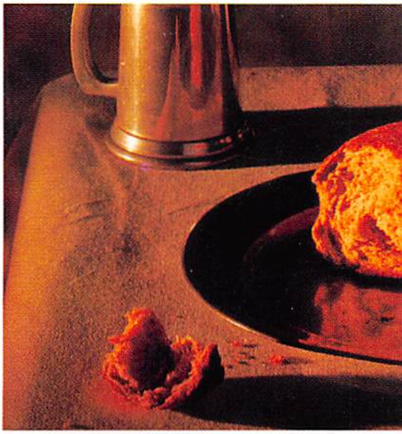
の夜、その肉を火に焼いて食べ、種入れぬパンと苦菜を添えて食べなければならない。生でも、水で煮ても、食べてはならない。火に焼いて、その頭を足と内臓と共に食べなければならない。朝までそれを残しておいてはならない。朝まで残るものは火で焼きつくさなければならない。あなたがたは、こうして、それを食べなければならない。すなわち腰を引きからげ、足にくつをはき、手につえを取って、急いでそれを食べなければならない。これは主の過越である。その夜わたしはエジプトの国を巡って、エジプトの国におる人と獣との、すべてのういごを打ち、またエジプトのすべての神々に審判を行うであろう。わたしは主である。その血はあなたがたのおる家々で、あなたがたのために、しるしとなり、わたしはその血を見て、あなたがたの所を過ぎ越すであろう。わたしがエジプトの国を撃つ時、災が臨んで、あなたがたを滅ぼすことはないであろう。

この日はあなたがたに記念となり、あなたがたは主の祭としてこれを守り、代々、永久の定めとしてこれを守らなければならない。七日の間あなたがたは種入れぬパンを食べなければならない。その初めの日に家からパン種を取り除かなければならない。第一日から第七日までに、種を入れたパンを食べる人はみなイスラエルから断たれるであろう。かつ、あなたがたは第一日に聖会を、また第七日に聖会を開かなければならない。これらの日には、なんの仕事もしてはならない。ただ、おのおのの食べものだけは作ることができる。あなたがたは、種入れぬパンの祭を守らなければならない。ちょうど、この日、わたしがあなたがたの軍勢をエジプトの国から導き出したからである。それゆえ、あなたがたは代々、永久の定めとして、その日を守らなければならない。正月に、その月の十四日の夕方に、あなたがたは種入れぬパンを食べ、その月の二十一日の夕方まで続けなければならない。七日の間、家にパン



種を置いてはならない。種を入れたものを食べる者は、寄留の他国人であれ、国に生れた者であれ、すべて、イスラエルの会衆から断たれるであろう。あなたがたは種を入れたものは何も食べてはならない。すべてあなたがたのすまいにおいて種入れぬパンを食べなければならない』」。

そこでモーセはイスラエルの長老をみな呼び寄せて言った「あなたがたは急いで家族ごとに一つの小羊を取り、その過越の獣をほふらなければならない。また一束のヒソプを取って鉢の血に浸し、鉢の血を、かもいと入口の二つの柱につけなければならない。朝まであなたがたは、ひとりも家の戸の外に出てはならない。主が行き巡ってエジプトびとを撃たれるとき、かもいと入口の二つの柱にある血を見て、主はその入口を過ぎ越し、滅ぼす者が、あなたがたの家にはいって、撃つのを許されないであろう。あなたがたはこの事を、あなたと子孫のための定めとして、永久に守らなければ



ばならない。あなたがたは、主が約束されたように、あなたがたに賜わる地に至るとき、この儀式を守らなければならない。もし、あなたがたの子供たちが『この儀式はどんな意味ですか』と問うならば、あなたがたは言いなさい、『これは主の過越の犠牲である。エジプトびとを撃たれたとき、エジプトにいたイスラエルの人々の家を過ぎ越して、われわれの家を救われたのである』」。民はこのとき、伏して礼拝した。

イスラエルの人々は行ってそのようにした。すなわち主がモーセとアロンに命じられたようにした。

夜中になって主はエジプトの国の、すべてのういご、すなわち位に座するパロのういごから、地下のひとやにおる捕虜のういごにいたるまで、また、すべての家畜のういごを撃たれた。それでパロとその家来およびエジプトびとはみな夜のうちに起き上がり、エジプトに大いなる叫びがあった。死人のない家がなかったからである。そこでパロは夜のうちにモーセとアロンを



呼び寄せて言った、「あなたがたとイスラエルの人々は立って、わたしの民の中から出て行くがよい。そしてあなたがたの言うように、行って主に仕えなさい。あなたがたの言うように羊と牛とを取って行きなさい。また、わたしを祝福しなさい。」

こうしてエジプトびとは民をせき立てて、すみやかに国を去らせようとした。彼らは「われわれはみな死ぬ」と思ったからである。民はまだパン種を入れない練り粉を、こねばりのまま着物に包んで肩に負った。そしてイスラエルの人々はモーセの言葉のようにして、エジプトびとから銀の飾り、金の飾り、また衣服を請い求めた。主は民にエジプトびとの情を得させ、彼らの請い求めたものを与えさせられた。こうした彼らはエジプトびとのものを奪い取った。

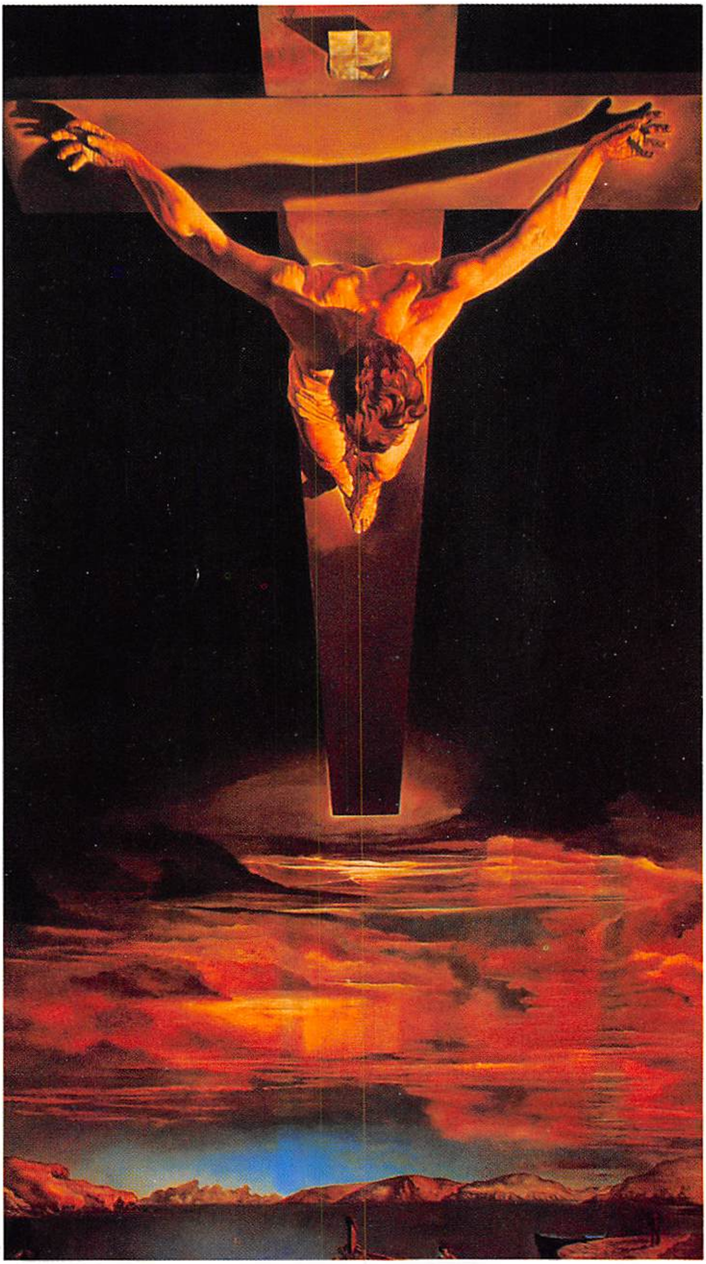
さて、イスラエルの人々はラメセスを出立してスコテに向かった。女と子供を除いて徒歩の男子は約六十万人であった。また多くの入り混じった群衆および羊、

牛など非常に多くの家畜も彼らと共に上った。そして彼らはエジプトから携えて出た練り粉をもって、種入れぬパンの菓子を焼いた。まだパン種を入れていなかったからである。それは彼らがエジプトから追い出されて滞ることができず、また、何の食糧をも整えていなかったからである。

（今日でもユダヤ人は無発酵パンに信仰を持っているそうである）

このように、これらの殺生をはじめとする悪業の集積の色が、この暗い濁った緑であり、その果報は痛み苦しみといった現象として表われる。つまり、わたしたちが社会通念として善であると思っている、ハエ、蚊など、小さな生き物たちの殺生も、それらを殺すと、しっかりといじめられり、暴力を受けたりするという果報として返ってくるのである。

そして、濁った緑を好む人は、卑屈、苦しみ、妥協等



を絶えず十字架のように背中に背負っている人であるから、特に恋愛をしたり、結婚を考えるときには注意すべきである。

青

ブルー、それは執着の色

BLUE

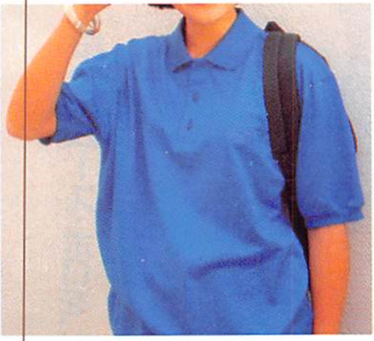
◉光を放つ透明なブルー

もともと光を放つ透明なブルーは、ヴァイローチャナ真理勝者（大日如来）の象徴的世界の色である。このヴァイローチャナ真理勝者が、五真理勝者の最高峰に位置し、空を表わすことを考えれば、この光こそ最高の光の一つであると断言できるだろう。

わたしの弟子たちを見ていると、この光り輝く透明なブルーを心の働きとして発する場合がある。このとき彼らの意識状態は帰依することに喜びを見いだしている――



つまり、三宝（さんぽう）に対して心から執着し、衆生済度に意欲を燃やしているのである。
　同じように、光を放つ透明なブルーの衣服を好む人は、ナイーブであり、繊細で、内側の世界に対する欲求が強く、真面目で、かつ裏切らない人ということができるだろう。
　一般的に光を放つ透明な色を好む人は、出家欲求というものがあるが、この光り輝く透明なブルーを好む人は、対象となるおつきあいしている異性のことをよく考え、相手を傷つけないようにしながら、出家の道に入っていくので、このタイプがあなたの恋愛相手であったとしても、あまり出家については気にする必要はないと思われる。
　ところで、この光を放つ透明なブルーは、先程も述べたとおり、ヴァイローチャナの世界のシンボル・ライトであり、喉のチァクラと密接な関係がある。したがって、この色を好む人は、大変よく仕事ができ、部下を統率す



ることができるとともに、権力志向が強いことをつけ加えておこう。

◉光を放つ濁ったブルー

もともとブルーといえば、ブルー・フィルムに象徴されるように、イメージ的性欲を表わす光である。これは、水元素※＝スヴァディスターナ・チァクラ＝性のチァクラという密教的教えとも合致した考え方である。

この光を放つ濁ったブルーを好む人は、具体的に異性と交わることを好むわけではなく、あくまでも異性との恋愛的交わりをイメージし、そのイメージの中で楽しむことを好む人が多いようである。

したがって、このタイプの人は、どの異性に対してもある程度やさしい。そして、このタイプの特徴は、自己のイメージで肯定される形状‐容姿に特に引っかかる。なぜなら、イメージの世界で遊ぶわけであるから、対象

は自己の審美眼にかなっていなければならないからである。

わたしの弟子に、この光を放つ濁ったブルーを心の発する光の色として有している者がいた。彼は大変ハンサムで真面目であったが、絶えず美しい女性の影がつきまとっていた。

彼の様子を分析していると、異性と楽しくしゃべる、



ちょっと触れる程度の行為は行なうのだが、その一線から は決して踏み込まないことがわかった。これは彼の性的欲求は具体的ではなく、イメージ的、アストラル的であるからに他ならない。

したがって、このタイプの色を好む人とおつきあいする場合、対象となる異性はイメージに対するけがれは存在しているが、具体的にはやさしく、頼りになり、かつ



淡泊な人ということができるだろう。だから、あなたが相手のムードを壊さないように努力すれば、とってもステキでムーディな恋愛、あるいは結婚生活が保証されるだろう。

◉暗い透明なブルー

人の上から四番目のチャクラに、アナハタ・チャクラが存在する。このチャクラは、四つの偉大なる心の中の聖慈愛、および聖哀れみと密接な関係を持つ。

人がある特定の異性に執着し、その異性を独占することができない場合、初めは小さな悲しみから、次第に大きな悲しみへと移行してゆく。このとき、その悲しみに比例して、体全体の風エネルギーを、その悲しみに集中させるので、その人のアナハタ・チャクラはどんどん大きくなるのである。

しかし、もともと理想的な風エネルギーの働きは、こ

のようなアナハタ・チァクラを含めた七つのチァクラに引っかからず、つまりチァクラを大きくすることなく、上へ上へと上昇し、サハスラーラ・チァクラから抜けることであるから、この場合は当然アナハタ・チァクラ以上の部位でエネルギーの詰まりを生じさせ、頭痛、吐き気、あるいはヒステリー等の症状が見受けられるようになる。

とはいっても、このチァクラは、上から四番目のチァクラでもあるわけだから、当然いい要素も多く含まれている。例えば、相手の悲しみを理解する力、願望をかなえることのできる力等である。

しかし、本質的には暗い透明なブルーの象徴が、このアナハタ・チァクラの悲哀の意味合いと同義語的に見ることができるので、人生を楽しくおおらかに生きたいと考えるタイプの人にとっては、適当なパートナーとはいえないだろう。

ただし、もしあなたが鶴のカップルのように、あるい





は木に絡みつく蔓（つる）のようにお互いに執着し合い、しがみつき合って生きたいと考えるなら、このタイプの異性は、人生に対する洞察力も深いし、執着も強いし、また裏切ることを嫌うので、最高のパートナーということができるだろう。

したがって、人生は楽しみであると考える人にとっては否の相手であり、人生は悲しみと考える人にとっては最高の相手である。

最後に、この色を好む人は、絵画、書道、音楽等の芸術的センスや文才に秀出ていることをつけ加えておこう。



◉暗く濁ったブルー——ズバリ、風（ルン）トラブル

身体には、七万二千本の管が存在している。この管は、血管や神系管を含むという説と、そのような管は含まず、すべて風（ふう）エネルギーの通り道であるという説との二説に分かれているが、わたしは後者、つまり風の流れ道は純粋に七万二千本の通り道を有するという考え方をとっている。

この管が最大にけがれによって詰まると黒く見え、詰

まりが少し取れると濃い暗いブルーに見えるのである。
ところで、オウム真理教では五人の成就者が信徒、サマナにエンパワーメントを行なってきた。それは、このわたしと、ウマー・パールヴァティー・アーチャリー正大師、マハー・ケイマ正大師、ヤソーダラー正大師、マイトレーヤ正悟師である。
そのエンパワーメントの後の管の詰まりは、必ず黒を終点とする。濃い暗いブルーへと徐々に移行していく。そして、その部位に病を発生させたり、痛み、あるいはその部位のチァクラのけがれの現象化が起こるのである。
例えば例を挙げるなら、喉が濃い暗いブルーになると、喉の腫れ、発熱等、あるいは喉の痛みといった肉体的苦痛が発生したり、喉の右の部位が詰まると悪口を言い、左の部位が詰まると嘘をつくといったチァクラの働きが生ずることなどである。
同じように、マニプーラ・チァクラが濃い暗いブルーにけがれると、今まで嫌いで食べられなかったものに対



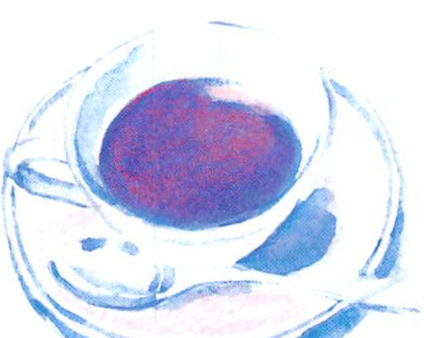
する執着、食欲昂進等、スヴァディスターナ・チャクラが同じようにけがれると不特定多数の異性に対する性欲の発生、ムーラダーラ・チャクラがけがれると嫌悪の増大、および物質欲の増大等が見受けられる。

つまり、この暗く濁ったブルーは、執着、貪りの象徴的な色であり、ナーディーの詰まりの色であり、わたしたちを不幸にする色だといえるだろう。

したがって、この暗く濁ったブルーの衣服を好む人は、要注意ということになる。つまり、執着が強い代わりに貪りも強く、りんしょく家で、ルン・トラブルを起こしやすく、暗い欲望を思念している人ということになる。

では、この色を好む人をあなたが好きになった場合、どのようにしたらよいだろうか？

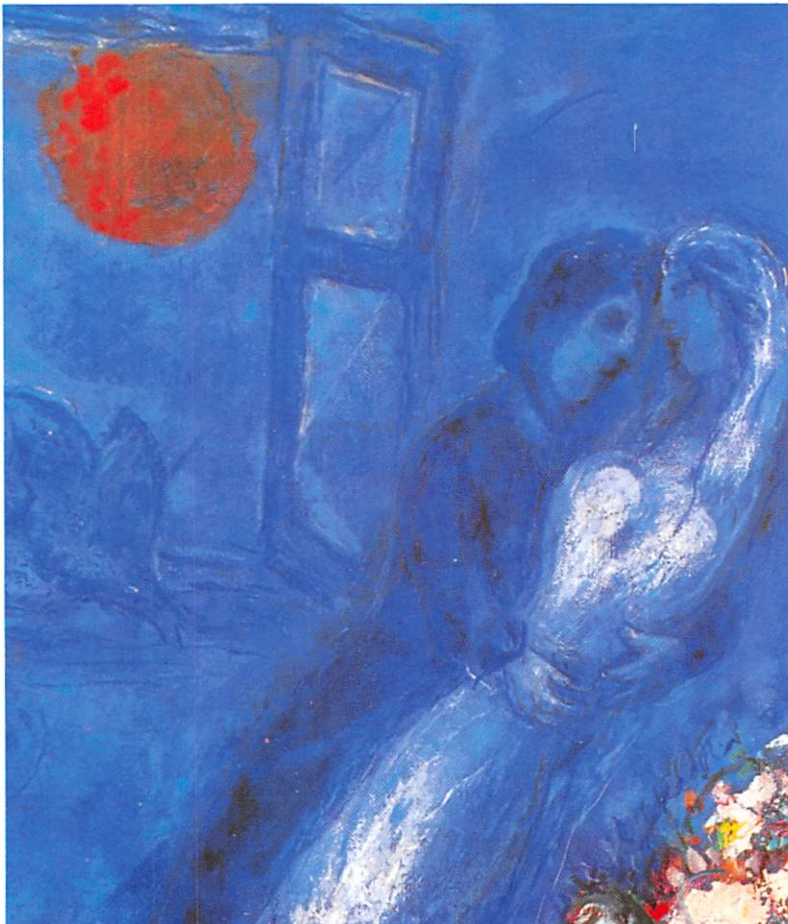
もともと、このブルーは、信仰のシンボルカラーであるから、あなたの好きなこの色を好む異性に、時間をかけて真理の法則を根づかせ実践させることにより、色の好みが徐々に変わって、暗いが透明なブルー、そして光



を放つ透明なブルーを好むように必ず変化するはずである。したがって、この色を好む異性は、あなたの努力次第で幸せになる要素を十分に持っている人といえるだろう。

人と人との出会いは、いろいろなパターンがある。したがって、幸せになる相手を選ぶことも大切だが、今愛している相手をよりよく理解し、真理の流れに導き入れ、幸福にすることは、もっと大切なことである。





藍

エネルギーの解放、それは藍より始まる

DEEP BLUE

いよいよ最後の二色になった。それは藍と紫である。この二色は人間的要素から解放され、人間以上の生命体に至りつつあることを表わしている。

◉光を放つ透明な藍

この色を好む人は、神秘主義的傾向が強い。また、自己の拡大欲求、成長欲求が大変強く、大変な努力家で、コツコツと自己の求めた道を歩く。現象に対する識別眼も鋭い。

参考までにつけ加えるならば、この色は、長年の激し

い修行に入った者が、達成の少し前に経験するものである。

前章で説明した青からこの光を放つ透明な藍に入ると、意識次元の変化が始まり、最終の魔境の状態へと突っ込んでいく。

修行者は前生から培った観念的傾向や、修行に入る前の今生の教育や経験、そして、社会環境で培った観念などと大いなる対決をしなければならなくなる。

そして、その大いなる対決の最中、今経験している自己の体験と、今まで培ってきた思い込みとの間に大きなギャップを生じ、これ以上にない不安定な状態を経験するのである。

もともと観念や教育で得たこと、経験などは、無数の間違った見解を有している。したがって、これらの「自己」と呼んでいたものが、実際は実態に基づいておらず、幻影であるということに気づくまで、この不安定な状態は続くのである。これが魔境と呼ばれる状態である。



それはちょうど、日本語だけの通じる日本国内で生活していた人が（この人は外国の存在を知らないと仮定する）、アメリカのニューヨークのマンハッタンのど真ん中に放り出されたようなものである。

彼は、言語の観念が完全に崩壊し、日本語以外の言語が存在するということを理解するまでは、不安定な状態を続けるだろう。

しかし、言語の真の意味合い、つまり、言葉とは、自己の心を相手に伝達する記号にすぎないのだということに気づいたとき、この人の不安定な要素は消えるのである。

つまり、この藍は、今まで固定されていた観念による幻影を打ち砕き、高次元へと誘う強い光なのである。

ところで、わたしたちは、上位形状界から非形状界へと移行する段階で、この光を経験する。そして、この経験が始まると、断続的に非形状界の世界を垣間見ることになるのである。



話を元に戻そう。この光を放つ透明な藍色を好む人は、神に対する観念的信ではなく、超越的な信を見いだす人である。

この超越的信とは、人間の思考で考えられ得る信という意味ではなく、人間の思考を遥かに超えた信という意味なのである。したがって、現世的なものにあまり価値を見いださず、隠遁生活を好むことも特徴の一つである。

この人の意識は、上方に向かっているから恋愛を好まない。この人の好みの異性は、お世話してくれる人なのである。つまり、現世の煩わしさを代わって行なってくれる人がこの人の好みなのである。

したがって、このタイプの人に心引かれ、結婚したいという欲望を持ったならば、積極的に相手に近づき、心からお世話をし、その人の身体の一部になるくらいの心構えが必要である。

また、このタイプの人は、内なる世界に大変強い関心を有しているから、一人静かに思索をしているときなど



は、邪魔にならないように、そっとしておいてあげる心配りが必要である。

このタイプの人はもともとエネルギッシュであるが、大変疲れやすい傾向を有している。それは上方、つまり高い世界、微細な世界に向かってエネルギーが漏れているからである。

したがって、よっぽど目上の引き立てがない限り、出世は期待できない。

また、自負が強く、そして、激しやすいことも付記しておこう。





◉光を放つ濁った藍
——けがれた目的を持つ宗教によって生じる色

まず、この色の意味合いについて説明しよう。この色は高度な神秘性に対する欲求と、激しい煩悩に対する欲求を表わしている。

もともと、わたしたちの真我（しんが）は、すべてのものを認識する力の欠如（非神秘力）によって、経験の構成にとらわれるようになる。

もし、真我が自己の経験を巨視的にとらえることがで

きるのなら、経験そのものが無常であり、苦そのものであることが認識できるはずなのであるが……。

この本をお読みになる方で、仏教的土台の固まっていない方がたくさんいらっしゃるだろうから、「無常」↓「苦」の理論についてご説明しよう。

わたしたちの経験は、極端に大別すると二つのカテゴリーに分けることができる。

第一のパターンは、本質的に喜びの経験である。この本は「色別恋人判定法」というタイトルであるから、恋愛について検証しよう。

例えばあなたが、この「色別恋人判定法」によって、素敵な彼を見つけた。そして、大変素敵な恋愛をし、結婚へと至った。彼は、あなたに対して想像どおりの素敵なパートナーの役、つまり夫の役を演じてくれた。生まれてきた子供たちも、あなたにとって大変優しく、賢い子供たちであった。

そして、あなたが彼よりも先に死ぬとしよう。あなた

はこのとき、どのような思いで死ぬことになるだろうか。当然、夫や子供たちを愛すれば愛するほど、深く強い悲しみにさいなまれるはずである。それは、愛する心が強ければ強いほどそうなる。

しかしである。あなたは瞬間、瞬間の経験をしているときに、つまり夫との戯れや家族の団らんを楽しんでいるときに、これらの楽しみが死別のときの苦しみを増大させていると理解することができるであろうか。当然〝否〟である。

そして、戯れや団らんの楽しみを純粋に楽しみとして見いだす心を非神秘力といい、その後に来る苦しみまでを瞬時に理解する心を神秘力というのである。

もう一方の極端は、一般社会で仕事も得意ではなく、人生からの逃げ場として結婚生活を選んだ人が、夫と性格が合わず、毎日憎しみ合っている。かといって、別の生活をする勇気がない。このような嫌な人と生活をしなければならない苦しみ、これもまた苦の本質である。



そして、この両極のみがこの世の中に存在しているのである。つまり、愛すれば別離の苦しみがある。憎しみ合っても苦しみであるということである。

しかし、この本質に見向きもせず、過去になした経験にとらわれて、わたしたちは流転し続けているのである。そして、これを経験の構成におけるとらわれというのである。

そして、次の段階でわたしたちは識別の段階へと入る。経験の構成の記憶の復活のとき、わたしたちは、当然前例を挙げるならば、第一のパターンをよしとする。つまり、あのような優しい夫、あのような賢い優しい子供……等である。

その心の働きによって、幻影の身体と心の構成要素が形成される。そして喜びを経験するために、幻影の身体に六つの感覚器官が生じる。そして、幻影の身体は幻影の身体において、対象との接触を生じさせる。

対象との接触によって感覚の経験が生じる。感覚の経

験によって、好む、嫌う、好むこともなく嫌うこともないという三つの意識が生じる。
そして、好ましい感覚をより求めるようになる。
ここでわたしたちは、〝求め経験し喜び、求め経験し喜ぶ〟ということを繰り返す。そして喜びの対象の存在なしには生存の喜びを見いだせなくなる。これが愛著（あいじゃく）である。
そして、この愛著によって、生存の世界を決定し、輪廻転生（りんねてんしょう）が定まるのである。
この法則を「条件生起の段階」と仏典ではいっている。そして、この法則を理解し、精通すると、欲望の増大が止まり、弱められ、それによって決して濁った色を好むということがなくなるのである。
しかし、完全なる真理の教え以外の宗教を奉じている場合、霊性の向上とともに欲望も増大する。その結果、〝光を放つ濁った藍色〟になるのである。
この色を好む人の特徴は、①仕事がよくできる　②批



判的、攻撃的　③閉鎖的　④神秘的　⑤感性的　⑥ダイナミック　⑦わがまま　といったような要素を有している。

したがって、この色を好む人に対しては、優しく、根気強く、忍耐してかかるべきである。

また、大変優れた才能を有しており、知的会話を好む傾向にあるから、知的水準を向上させるパートナーとしては最適であるということができる。

◉暗い透明な藍——器用貧乏

この暗いが透明な藍は、まさに才能の固まりではあるが、なかなか人に評価されない悲運を表わしている。

つまり、この色を好む人は、大変まじめで才能を有する人であるが、世渡りがヘタで、なかなか出世できない人なのである。

この藍色は、前節でも述べたとおり、人間以上のエネ

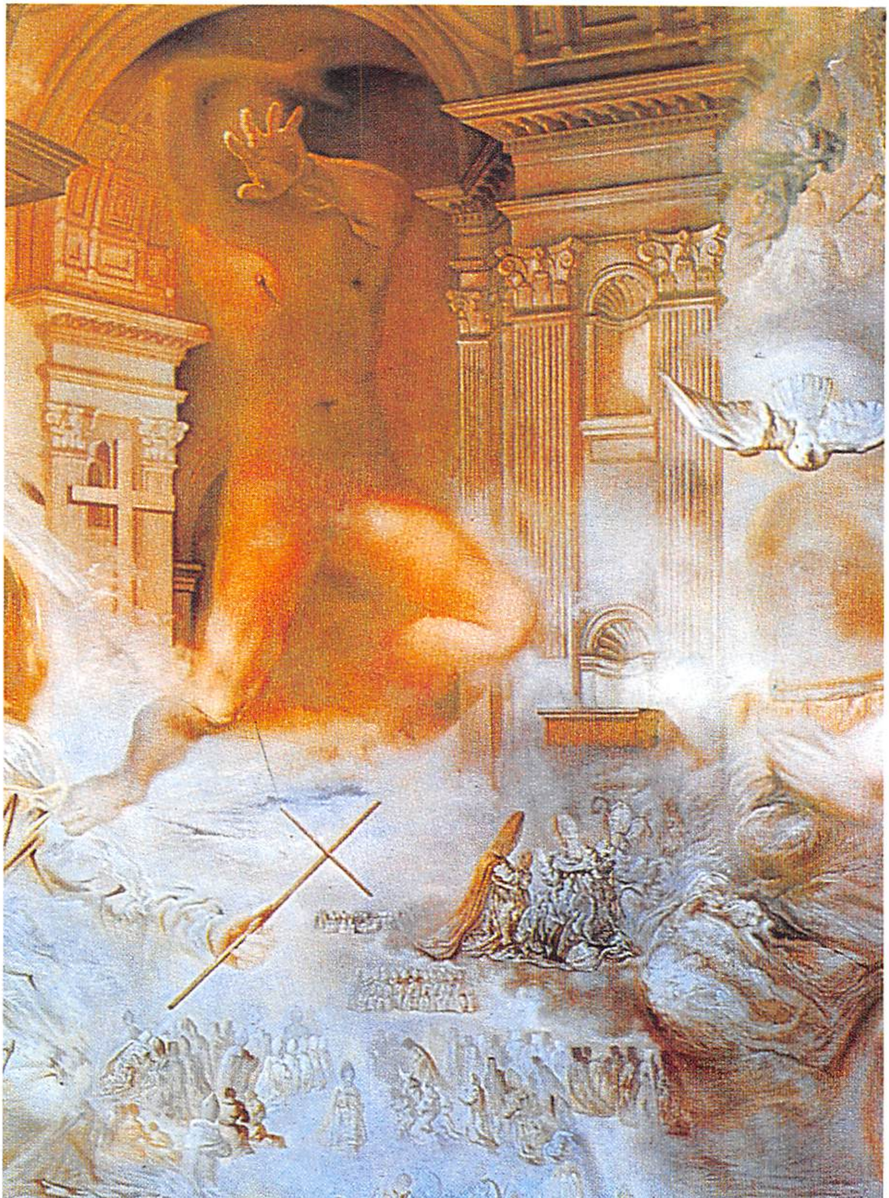
ルギー状態を示している。そして、その透明さは、その状態が周りに映し出される要素を表わしている。
　この人間以上の状態とは何を意味するのかというと、人間の能力を超えていることを意味しているのである。したがって、その人の欲求する道を歩くことによって、その道において抜きん出た才能を発揮するということなのである。
　そして、この才能が世の中に暗く透明な形で映し出されるわけだから、当然、周りが評価してても認められない、引き立てられないのである。
　したがって、このタイプの人を恋人として選ぶ場合は、とにかくオウム真理教に入信させ、功徳を積ませ、輝きを強めさせるべきなのである。もしそうしないと、一生貧乏な生活を送らなければならなくなる。
　ところで、わたしの弟子たちにも、この色のバルドーを発し、また、この色を好む弟子がいる。が、彼らの心は、絶えず不満にさいなまれている。



「わたしは実力があるのに、なぜ認められないのだろうか。」
「あの人は、実力がないのに、なぜ評価され、認められるのだろうか。」
等である。
これらは、すべてこの弟子たちが徳の理論を理解していないからなのである。
人生は偶然ということは決してあり得ない。すべては必然であり、それは条件によって成立しているのである。

◉暗く濁った藍――狂人の条件

エネルギーが強く、そしてそのエネルギーの通り道である管が煩悩によって詰まった場合に人は狂う。
わたしたちの心の働きは、「管・風(ふう)・心滴(しんてき)」の三つの総合作用によって成立する。
管とは身体に張り巡らされている七万二千本のエネル



ギーの通り道（気道ともいう）であり、風とは、その気道を前後・左右・上下に流れるエネルギーのことであり、心滴とは、その風によって運ばれる意識のことである。

では、なぜエネルギーが強く、管が詰まっている場合に気が狂うのであろうか。

それは、次の四つのパターンを想定してほしい。第一は軽自動車が時速三キロでゆっくりと鉄の壁にぶつかる場合、第二はダンプが時速三キロで同じように鉄の壁にぶつかる場合、第三は、第一のパターンの軽自動車が、時速百二〇キロで鉄の壁にぶつかる場合、第四は、ダンプが時速百二〇キロで鉄の壁にぶつかる場合である。

この四つの場合、鉄の壁は、軽自動車およびダンプの力を吸収しないものとする。また、これらの車は決してつぶれないものとする（＝完全弾性衝突）。

このとき、軽自動車やダンプの受ける力積（衝撃の強さを表わす）は、2mVである。

つまり、これからもわかるとおり、速度が大きく、し

かも質量の大きい物体がぶつかったとき、その衝撃力や受けるエネルギーは、甚だ大きくなるのである。

例として軽自動車を五百キロ、ダンプの重さを十トンとする。すると、その力積は次のようになるのである。

第一　2mV＝2×500×0・83＝830Ns（ニュートン秒）

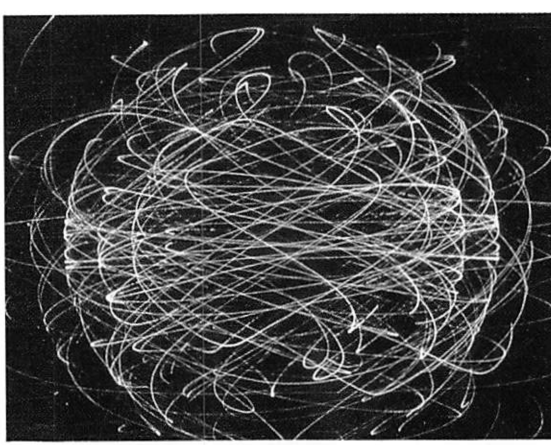
第二　2mV＝2×1000×0・83＝1660Ns

第三　2mV＝2×500×33・3＝33300Ns

第四　2mV＝2×10000×33・3＝666000Ns

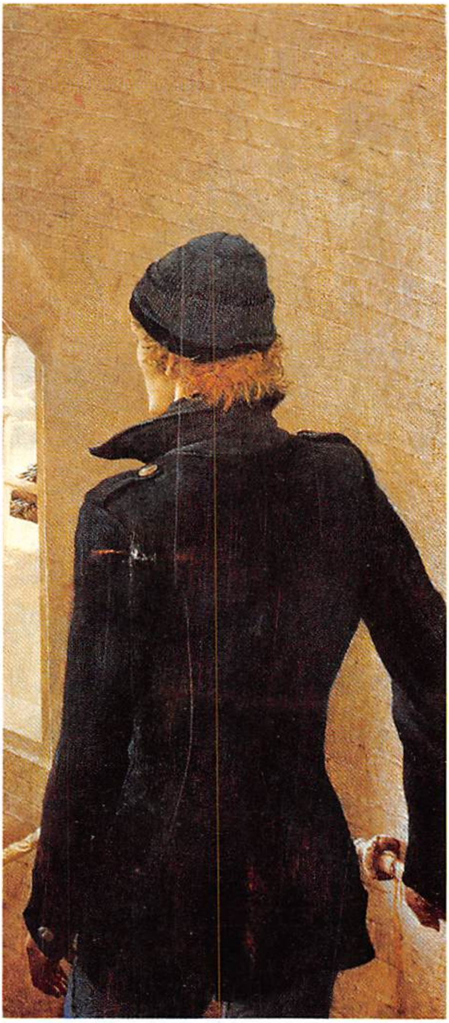
（※速さの単位換算のとき、四捨五入しているため、正確に八〇〇倍となってはいないが、四捨五入しないと正確に八〇〇倍となる）

この比からもわかるとおり、質量が二〇倍になり速度が四〇倍になることによって、八〇〇倍の衝撃を受けるのである。そして、赤と藍色との速度、および質量の比は、この差ではない（E＝m c^2　E＝エネルギー、m＝



質量　c＝光の定数）。
クンダリニー・ヨーガの修行者はよく気絶するが、実はこの衝撃のためなのである。
ところで、強められた風に乗った意識が、しょっちゅうこのような衝撃を受けるとするならばどうだろうか。当然、精神に異常を来したとしてもおかしくない。激しい恋愛の末の悲恋から気が狂うという例をよく見受けるが、これも同じ理論に基づいている。
元信徒で、このバルドーを有している人がいた。彼は三角関係のもつれの末、木刀を持って恋敵のところへ殴り込み、何発も殴った。その恋敵として木刀で殴られた男性は信徒であり、自己のカルマ落としであると考え、じっと耐えたそうである（さすがはわたしの弟子である）。が、木刀で殴り込んだ彼は、次の年、めでたく東大に合格したのである。
これはまさにこの色の特徴を物語っている。つまり狂気性、活動力、知性の三つである。

したがって、この色を好む相手との結婚は、よっぽど体力に自信があるか、従順な性格の人のみ可能なのである。



紫

紫は神秘性

PURPLE

いよいよ最高のエネルギーを表わす色である紫である。

運命学に奇門遁甲（きもんとんこう）というものがある。この中に九気というものがあり、これは一白、二黒、三碧、四緑、五黄、六白、七赤、八白、九紫というふうに分類されている。この定位盤（その象徴が〈気が〉本来座するところであり、その特徴を最も表わすところである）の中央真上に九紫が存在しており、この九紫は一から始まり二ケタに至るまでの最高位である九と、色の中で最も高いエネルギーを出す紫とを併せ持った象徴である。

そして、この九紫の意味合いとして、「真理勝者」とか「覚者（かくしゃ）」があるのである。これはとりもなおさず、こ

四緑	九紫	二黒
三碧	五黄	七赤
八白	一白	六白

の紫が、高貴な色として取り扱われたことを意味しているのである。

◉光を放つ透明な紫――王者の色

この色を好む人は、希望、勇気、発展性、行動力、直感力、スケールの大きさ――何一つとっても申し分のない人物になる可能性のある人である。

ここで可能性といっているのは、好むということが、この色を志向しているにすぎないからである。したがって、もしこの色のバルドーを有している人がいたなら、その魂は自動的に世界の王として君臨することは間違いないであろう。

ところで、わたしは小さいころから、この色が最も好きであった。そして、この色を志向し修行を続けている。なぜならば、この色は、アカニシタ天、オウム真理教の訳語では超越童子天(ちょうえつどうじてん)の色であり、光であり、この色と光

を超えない限り、未来際においてマイトレーヤとして最終の生を送ることができないからである。

また、このバルドーの光を発することのできる人は、十億宇宙においてただ一人であるといわれている。そのただ一人というのは世尊(せそん)であり、真理勝者を意味しているわけで、今の地球には存在していない。

この色を含むこれ以上のエネルギーと色や光の関係についで触れておくならば、青紫→赤紫→X線→γ線の順にエネルギーが高くなる。つまり、人間の眼に見えるものとしては、赤紫が最高ということになる。

この光を放つ透明な紫を好む人があなたの恋人であったなら、この人に対しては否定的な言葉を言わないで、ひたすら励ますべきである。その励ましこそが彼を偉大な人へと成長させることとなる。



◉光を放つ濁った紫——まさにヤクザ

この光を放つ濁った紫色を好む人は、権力、名誉、地位といったものに対する欲求が強い。しかも、正当な手段を好まない傾向がある。

よくヤクザを職業としている人がこの色を好むのは、二つの理由からである。第一は最も強い者に対するあこがれを表わす紫と、煩悩の象徴である黒が合わさっているからである。

また、この色を好む人とおつきあいする場合、活動的で気前がよく、あっさりしているがムラ気で暴力的であるという特徴を持つ。したがって、遊びの相手としては、表面的には大変楽しい相手だが、真剣な結婚生活や家庭生活を営む相手としては不適当と思われる。したがって、このタイプと結婚する場合には、徹底的に無常を教え込むべきである。それによって彼の性格的傾向は変わるだろう。



◉暗い透明な紫

この色を好む人は、真面目で名誉を好み、大変親切である。そして、あまりハデなことを好まず、人生の目的を一つの作品を作り上げるような感じでとらえている。また、権力や地位においてもトップになることを好まず、二番手や三番手を好むものである。内的性格としては、もの静かで、理知的ではあるが、冷たさを含んでいる。

したがって、自己の立場より会社や組織の立場をとり、必要だったら妻との離婚もやむなし、という態度をとる。つまり、参謀タイプなのである。

したがって、このタイプは自分の仕える大将に巡り合うことができたなら、大いに出世し発展するだろうし、そうでない場合はあまり陽の目を見ないのである。

このタイプの人は、ある程度自己を確立しているので、恋人とする場合、彼の生き方を認め、邪魔にならないよ

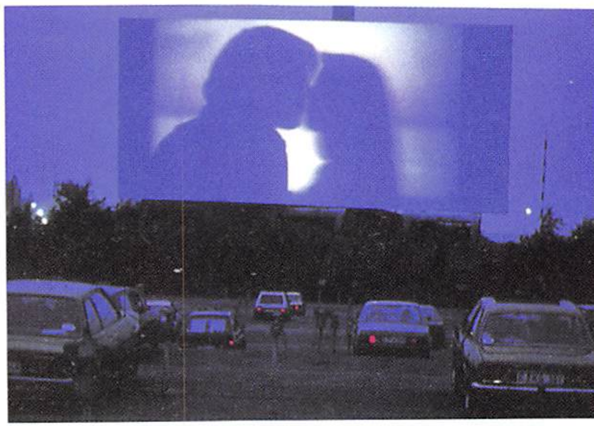
うに絶えず気を使う必要がある。それによってのみうまくいく相手なのである。

◉暗く濁った紫——まさに魔境

この暗くて濁った紫を好む人は、まさに魔境である。つまり、煩悩と現世的な貪り、例えば、権力、名誉、地位、財産など、ありとあらゆるものを意味しており、その欲求がこの色で表わされているのである。

したがって、この色を好む人は、それらの要素を内在している人と考えなくてはならない。

すなわち、言うことがコロコロ変わり、仕事もコロコロと変わり、もともと仕事というものが好きではない。そして夢想家であり、一獲千金を夢見るのである。ゆえに、この色を好む人との恋愛は避けた方がいいし、つきあえばつきあうほど、あなたの人生は悲惨な状態となるだろう。



最後に――。

この『色別恋人判定法』は、わたしの長年にわたる人生相談の経験（のべ数万人の）と神通力による透視によって得た経験を基に書かれたものである。したがってデータに対しては、信頼性が非常に高いのであるが、これを読んで使いこなすあなた方のセンスによって、この本の本当の価値が生じるものと考えている。

なぜならば、一つの色をとったとして、その色が光輝いているか濁っているか、透明であるか暗いかという四つの選択は、なかなか難しいところがあるからである。

つまり、微妙なところの判定が、経験の少ない方々にとってはし難く、そこで狂いの出てくる可能性が大きいということである。

わたし自身が、その場に立ち会うことができないのは大変残念である。

それはそうとして、この本が大変有用なものになるこ

とを確信してペンを置く。

一九九二年四月十五日早朝

シヴァ大神とすべての真理勝者方のしもべ記す。

麻原彰晃



ム真理教ラジオ番組

テス・バシレイアス



- 中波(AM) 720kHz　毎日23時から24時まで
- 短波　15.315MHz　毎日22時から23時まで

麻原尊師が贈るオウ

エウアゲリオン・

話題の有名人との対談、
心を揺さぶる説法……。
あなたの知らない麻原尊師と
オウム真理教の魅力がいっぱい。

**あの麻原尊師の声が
あなたの耳を直撃！**



「幸せになりたい！ でも、信徒になるのはちょっと……
そんなあなたに贈る最高のプレゼント！」

『えんじょい・はぴねす』の定期購読を申し込まれた方は、様々な特典が受けられる〝EH会員〟になることができます。EH会員は信徒ではありませんが、自由にオウム真理教のイベントに参加できますし、全国や海外の本部・支部をいつでも利用できます。お気軽にオウム真理教をのぞいてみませんか？



特典の一部を紹介すると……

- オウム真理教主宰のイベント、説法会等へ自由に参加可。
- 幸福情報を満載したＥＨ会員手帳をもれなくプレゼント！
- 成就者との対面および電話による悩み相談。
- 各種販売物を信徒価格で購入可。

〝えんじょい・はぴねすの会〟会員（EH会員）になるには？

※入会金無料。月刊『えんじょい・はぴねす』の定期購読を申し込み、料金の払い込みが確認されるとEH会員となります。
なお、定期購読の申し込みは6カ月単位で郵送料込み6000円です。

※詳しくはお近くのオウム真理教本部・支部までお問い合わせください。

麻原尊師のラジオ番組
「エウアゲリオン・テス・バシレイアス」が
100倍楽しめるタイアップマガジン

月刊「えんじょい・はぴねす」



楽しいはずの人生なのに、
空しさを感じるのはなぜ？
生活だけでなく、〝心〟も豊か
になりたいから……
すべての苦しみと悲しみに別れを
告げたいから……

だから今日から〝えんじょい・はぴねす〟





◆各道場のご案内◆

富士山総本部　0544(54)1267
〒418-01　静岡県富士宮市人穴381-1
東京本部　03(3327)8565
〒156　東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F
新東京本部（杉並道場）03(3396)9393
〒167　東京都杉並区下井草4-4-4　井口ビル2F
大阪支部　06(397)1022
〒532　大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-14 八光ビル2F
福岡支部　092(474)2877
〒812　福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F
名古屋支部　052(252)0709
〒460　愛知県名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル3F
札幌支部　011(241)4938
〒060　北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1 チサンホテル本館2F
京都支部　075(371)3759
〒600　京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384 松本ビル2F
仙台支部　022(268)3904
〒982　宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F
金沢支部　0762(51)8457
〒920　石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F
高知支部　0888(84)8286
〒780　高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F
広島支部　082(264)6250
〒732　広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F
横浜支部　045(243)8079
〒231　神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2 コスモ伊勢佐木長者町ビル204
和歌山支部　0734(24)2859
〒640　和歌山県和歌山市駿河町42 和歌山酒販会館2F
水戸支部　0292(26)8044
〒310　茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F
船橋支部　0474(66)4965
〒274　千葉県船橋市新高根6-26-18
那覇支部　098(869)7707
〒902　沖縄県那覇市安里2-4-12 嘉数グラビアハイツ5F
深谷出張所　0485(74)6205
〒366　埼玉県深谷市萱場441-8
渋谷出張所　03(3476)5065
〒150　東京都渋谷区道玄坂1-15-3　プリメーラ道玄坂317号
〈海外支部〉
ニューヨーク支部　212(421)3687
8 East 48th St. #2E (2nd Floor), New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部　(0228)616647
Auf dem Hügel 48, Endenich, 5300 Bonn 1, S.R.Germany
スリランカ支部（AUM SACCA SAṄGHA ASSOCIATION）
Sorahena, Watta, Anglugaha, Galle, Shri Lanka

色別恋人判定法

1992年6月1日　初版発行
定価1500円（本体1456円）
著　者　麻原彰晃
発行者　松本知子
　　　　石井久子
編　集　オウム出版広報編集部
発行所　株式会社オウム
　　　　〒154　東京都世田谷区世田谷2-8-17
　　　　電話　03(3439)6043　振替　東京2-109325

ISBN4-87142-043-4 C0014 P1500E

色別恋人判定法



ISBN4-87142-043-4 C0014 P1500E 定価1500円（本体1456円）